

序

夫下學為目之為書也教者
奇味以他人之通用之說遂以
可謂為世不癢之書之可及
者書之起為之增補為之整
以若先編修法本之增補
錄然明備也指法學之文終之



或采字省注釋成經考圖通
之止地較也如年流世之文釋
以古物冠採為古新也世百
之字以部讀解款之并難
而夕出心之之備覽之於
通附之刑劇民設釋以便
象同之謂通之便象抄也極
早辭而之免嗟拚賦之之
書之之也切字之士為於
用書錄之一助也爾

昔

天和之粒重之他處仲冬之

1681

元井如海子自叙

新書

一 天地人の三カミを象として卷を三巻として門を十
 二より第一の月数を表は
 一 首卷は世に別れの文字を記し臍巻は難
 字れ出所を論じ各訓解をも下し餘あるは
 一 足巻は廢物乃其名を記してあらず其下
 一 一を義を評す
 一 一を義を評す
 一 一を義を評す

通言便蒙抄分類 凡十二門

總目錄

乾坤門	首卷二丁メ	臍卷二丁メ	足卷二丁メ
時侯門	首卷五丁メ	臍卷二丁メ	足卷七丁メ
神祇門	臍卷三丁メ		
人倫門	首卷六丁メ	臍卷四丁メ	
気形門	臍卷十三丁メ	足卷十八丁メ	
支體門	臍卷廿二丁メ		

草木門

脩卷十七丁メ 足卷九三丁メ

衣食門

首卷十二丁メ 脩卷十一丁メ 足卷三十丁メ

器財門

首卷十一丁メ 脩卷七丁メ 足卷六六丁メ

居宅門

脩卷十丁メ

彩色門

脩卷六四丁メ

言語門

首卷末二丁メ 脩卷末二丁メ

目錄序

通言便蒙抄首卷之本

世間所用之文字訓解

進

永井如瓶子輯



門人富山白玉子書

乾坤門

一天

四書大全朱子云天圓而動包乎地外地方而靜

處乎其中故天形半度地半度地中旋地不旋不息

之樞紐則在南北之端焉觀之極南極入地之十六度

加周回七十二度常隱不見北極出地之十六度故周

回七十二度常是不隱云經星隨天左旋日月已緯

通言抄二下本

右轉更迭恒見之天の形ハ圓にして鶏卵乃

とて之の長二百六十度四分一也塔方

よりて天の中より見れば少極と云ふ

此の形ハ地下に隠る天に於て日月と緯ハ

右旋して常に運動するなりと云ふ廣雅曰天

去地二億一千万七百里半度地之厚与天高等

南北相去二億三千万七百里二十五步東西短

四十歩云

一月 大易の精人天の家也陽谷より出る也

一入東より出る也景曜といふ西より薄る也

少の事也自虎通云日徑千里周三千里云

一月 大儀の轉也秋名月缺也滿則缺之儀也

不足するもの故に滿る時に必かく十五日滿月

て十六日より少くなるなり也此の理を古より

知るべしと云ふ也

いづよふや人の世中

一星 六緯列省の勢名あり星ハ湯の分れ

の故に文字も日生と云ふ春秋說頭

星之為言精也陽之榮也陽精為日日為星
故其字日生為星

一風 風者陽之休也乾之陰也風也

故風中時必有乾也乾者風也氣散

也風中時必有乾也乾者風也氣散

也風中時必有乾也乾者風也氣散

也風中時必有乾也乾者風也氣散

一雲 雲者陰陽薄震の聲なり

雷者陰陽薄震の聲なり

雷者陰陽薄震の聲なり

雷者陰陽薄震の聲なり

雷者陰陽薄震の聲なり

雷者陰陽薄震の聲なり

雷者陰陽薄震の聲なり

雷者陰陽薄震の聲なり

雷者陰陽薄震の聲なり

雷者陰陽薄震の聲なり

一電 イナガリ 礼記月令二月始電之 疏云電陽光之始
ビナガリハ 微則光不見此月陽氣漸盛以敷于陰也
イナガリ 乃見之 イナガリ 乃見之

一露 ツユ 露之始也 故曰露之始也
ツユ 露之始也 故曰露之始也

一霜 シモ 詩秦風白露為霜 霜之始也
シモ 霜之始也 故曰霜之始也

一雪 ユキ 陰濕之始也 故曰雪之始也
ユキ 雪之始也 故曰雪之始也

一電 イナガリ 西京雜記陰氣脅陽為電 電之始也
イナガリ 電之始也 故曰電之始也

一霧 キリ 霧之始也 故曰霧之始也
キリ 霧之始也 故曰霧之始也

一電 イナガリ 地氣上天气不應成霧 天气下地氣不應曰電
イナガリ 電之始也 故曰電之始也

一霧 キリ 霧之始也 故曰霧之始也
キリ 霧之始也 故曰霧之始也

一電 イナガリ 電之始也 故曰電之始也
イナガリ 電之始也 故曰電之始也

通して用ゆれどもさやけあはれ霧はホウの音

霧はホレ音とて同字同義の何れも又霧の字を

霧の他にも誤しとて書正偽のふりてり

虹 秋名虹攻也純陽攻後気也程伊川云

蛭 蛭氣之交映日而光朝西暮東之俗は虹は

日は向ふくも向ふくもさやけあはれ

と云の差別あり音義を雙々色鮮盛者爲

雄圖者爲雄と云ふ

雄圖者爲雄と云ふ

雄圖者爲雄と云ふ

雄圖者爲雄と云ふ

雄圖者爲雄と云ふ

雄圖者爲雄と云ふ

雄圖者爲雄と云ふ

雄圖者爲雄と云ふ

雄圖者爲雄と云ふ

雄圖者爲雄と云ふ

雄圖者爲雄と云ふ

これ天代乃る治世造化自然乃妙し

一 早魁 早字景侯侃切元陽不雨と注してひて

いと作らる 魁字景蒲樵切早神也神異記云南

方有入長二三尺目在頂上走行風名魁所見之國

大早一名早母と云はる魁と云はるの神也

一 森ぬ 森ぬと云はる文選張銑註三百兩為

霖と云はるはよりスーかゝる又勿海かた

時侯門

一 望日 望日と云はるは望日也尚書望日

矣已云くは望日也爾雅明目望日也

一 時昔

時昔と云はるは時昔也時昔の字義を

考と云はるは時昔の字義を考と云はるは

思ふと云はるは思ふと云はるは思ふと云はる

思ふと云はるは思ふと云はるは思ふと云はる

義之韻會時昔也と云はるは

一 教日 教日と云はるは教日也教日と云はる

教日と云はるは教日也教日と云はるは教日也

教日_{チヨウニツ}は又_{マタ}六_{ロク}自_{ミナ}る_ル

一 輒_{チヨウ}時_ジ

今_{イマ}俗_{ソウ}多_タれ_ル又_{マタ}雅_ヤの_ノ字_ジ多_タし_シ又_{マタ}今_{イマ}の_ノ體_{タイ}

輒_{チヨウ}時_ジと_ト付_{ツキ}す_ルれ_ルの_ノ時_ジと_トし_テ也_ヤ今_{イマ}の_ノ體_{タイ}

江_エ別_{ベツ}府_フ乃_ノ刻_{コク}る_ルも_モ同_{ドウ}也_ヤ

人倫_{ニニ}門_{モン}

一 朕_チ

朕_チ天子_{テンシ}の_ノ謙_{ケン}称_{ショウ}と_ト云_ク天子_{テンシ}の_ノ自_{ミナ}の_ノ事_{コト}

乃_ノ字_ジを用_{ヨウ}ひ_ル事_{コト}と_ト朕_チの_ノ一_{ヒト}字_ジの_ノ體_{タイ}の_ノ法_{ハフ}律_{リツ}は_ハ

外_ゲ字_ジ不_フ用_{ヨウ}の_ノ例_{レイ}は_ハ後_ゴ漢_{カン}の_ノ人_{ニン}の_ノ體_{タイ}に_ニ

訓_{クニ}み_ルれ_ルは_ハ也_ヤ用_{ヨウ}ひ_ル事_{コト}に_ニ按_{オヒ}ず_ル者_{モノ}皆_ハ

帝_{テイ}堯_{ギョウ}の_ノ詞_ジと_ト朕_チと_ト稱_{ショウ}と_ト及_キ秦_{シン}の_ノ始_シと_ト二_ニ字_ジ

よ_ヨり_テも_モる_ル天_{テン}子_シの_ノ自_{ミナ}稱_{ショウ}と_トも_モる_ル法_{ハフ}律_{リツ}に_ニ

よ_ヨら_ニて_テも_モる_ル天_{テン}子_シの_ノ自_{ミナ}稱_{ショウ}と_トも_モる_ル法_{ハフ}律_{リツ}に_ニ

其_{コノ}例_{レイ}に_ニ

一 儒_{ニニ}者_{モノ}

儒_{ニニ}ハ_ハ儒_{ニニ}也_ヤと_ト訓_{クニ}み_ルる_ルに_ニ義_ギと_ト考_{コウ}す_ル也_ヤ

道_{ミチ}を_シて_テ天_{テン}下_カ國_{クニ}を_シて_テ治_シむ_ル事_{コト}也_ヤ

注_{シュ}ス_ル枝_エ葉_{エフ}根_ネ莖_キを_シて_テ成_{セイ}長_{チヨウ}す_ル者_{モノ}也_ヤ

儒_{ニニ}乃_ノ理_リと_トい_フハ_ハ天_{テン}地_チ百_{ヒャク}物_{モノ}の_ノ上_ウ也_ヤ

の理代亮^{キタ}申^シ天^ツに父子の弊^{イリ}倫^リの外^{ホカ}は^イ此^{コノ}を
と^シく^テ尚^ナ意^イを^シめ^ルれ^テ又^モい^ハふ^{コト}も^シこれ^ハ偽^キ道^{ウチ}の^{ウチ}
れ^モ有^ラし^テ極^キや^トい^フべ^シ

一 穿人

知^チり^カ枝^エ持^チが^クま^カら^レれ^ル事^ハい^ハふ^{コト}の^{ウチ}も^シ也^ナ

又^モ浪^ラ人^ニと^シて^モ今^ノ穿^ス人^ト浪^ス人^トと^モ毎^レ日^ニ周^ル也^ナ

竊^シは^カ考^カふ^{コト}も^シん^カら^ズ也^ナ 先^ニ穿^ス字^ハ各^ノ力^ヲ切^リ穿^ルと^シ

毎^レ日^ニ周^ルの^{ウチ}も^シく^テい^ハふ^{コト}も^シ先^ニ穿^スと^シて^モ此^レハ^シヨク^ナ

為^スる^{コト}物^トと^シて^モ事^ハと^シて^モ身^ヲと^シて^モい^ハふ^{コト}も^シ也^ナ

又^モ浪^ラの^{ウチ}も^シく^テ流^ル浪^ルの^{ウチ}も^シく^テ時^ヲと^シて^モい^ハふ^{コト}も^シ也^ナ

流^ル浪^ルす^ル人^トと^シて^モ穿^ス人^トと^シて^モい^ハふ^{コト}も^シ也^ナ

欣^ニ悦^ビ文^ヲと^シて^モ穿^ス人^トと^シて^モい^ハふ^{コト}も^シ也^ナ

い^ハふ^{コト}も^シく^テい^ハふ^{コト}も^シく^テい^ハふ^{コト}も^シく^テい^ハふ^{コト}も^シ也^ナ

一 穿領

穿^ス領^トと^シて^モ思^フコト^ハ字^ハ景^ノ穿^ル子^ハ海^ノ切^リ主^ト也^ナ

あ^リる^{コト}物^トと^シて^モい^ハふ^{コト}も^シ也^ナ

い^ハふ^{コト}も^シく^テい^ハふ^{コト}も^シく^テい^ハふ^{コト}も^シく^テい^ハふ^{コト}も^シ也^ナ

い^ハふ^{コト}も^シく^テい^ハふ^{コト}も^シく^テい^ハふ^{コト}も^シく^テい^ハふ^{コト}も^シ也^ナ

穿^ス領^トと^シて^モい^ハふ^{コト}も^シ也^ナ

遊言抄上之卷

之事の流るるに於て荷物なるの滞留もあぶ
悔意なきにぬよ^{アハ}と合はるるをいふもあ^{アハ}は
物もけ^{サイ}率ハ流るるに領^{リカ}うぬれよ^{アハ}を^{アハ}遠留
悔意もあぶ^ケうぬれ^ケやらん^ケぬ^ケ人^ケ吏^ケをつら
ころし^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也

一 拙者 つら^ケい^ケもの^ケと^ケ先^ケ上^ケ謙^ケの^ケ情^ケ也^ケ
野^ケ吏^ケの^ケ情^ケ也^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也

一 傾城 傾^ケ城^ケ 城^ケを^ケり^ケび^ケけ^ケ傾^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也
カニ^ケの^ケ考^ケ也^ケ帝^ケの^ケ情^ケ也^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也

此^ケ考^ケ也^ケ人^ケ形^ケ也^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也
と^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也 北方有^ケ往^ケ人^ケ絶^ケ世^ケ而^ケ獨^ケ立^ケ一^ケ顧^ケ傾^ケ人^ケ城^ケ
再^ケ顧^ケ傾^ケ人^ケ國^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也 漢^ケの^ケ考^ケ也^ケ帝^ケの^ケ情^ケ也^ケ

め^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也 何^ケなる^ケもの^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也
或^ケ人^ケ活^ケる^ケま^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也 妹^ケ也^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也
あり^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也 け^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也 城^ケ也^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也
龍^ケ也^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也 漢^ケの^ケ考^ケ也^ケ帝^ケの^ケ情^ケ也^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也
一^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也 漢^ケの^ケ考^ケ也^ケ帝^ケの^ケ情^ケ也^ケと^ケい^ケま^ケこ^ケ一^ケ意^ケ也

され色欲^{ニキヨク}けり極^ケる^ニ此^ノもの^ハ一^ヲ一^ニ大^キ氣^ノも
 うつれ^{サニライ}山^ノ瀬^ノ命^ヲさ^ハり^ニさ^ハり^ニと^スる^ハも^トわ^キも
 あり^トぬ^キ事^ヲし^イふ^ハより^シ和^{カニ}薄^{カニ}あ^ハり^ニの^ノ更^ニ
 此^ノ人^ヲな^シより^テ國^ヲ城^ノと^シて^ハむ^カれ^ルり^ハあ^ハげ
 て^ハま^ハり^ニ一^ヲ只^ニわ^レれ^ルり^ハも^トは^ハつ^クる^ハも^ト
 かり^ニさ^ハり^ニて^ハま^ハり^ニて^ハ斷^ルて^ハさ^ハり^ニあ^ハり^ニ
 神^ノ天地^ノの^ノ事^ヲも^トけ^ハまり^シより^ハ一^ヲ一^ニ行^ハる^ハ後^ニ
 陽^ノ和^ノ合^ノと^シ難^キき^トて^ハ柄^ヲ立^テし^テも^ハあ^ハり^ニや^ハ難^キ事^ト
 事^ニし^テげ^キと^スを^ハれ^ハし^テ人^ノ倫^ノと^シて^ハ斷^ルて^ハあ^ハり^ニあ^ハり^ニ
 こと^ハす^レも^ハ難^キ事^トも^ハあ^ハり^ニあ^ハり^ニあ^ハり^ニあ^ハり^ニ
 こと^ハす^レも^ハ難^キ事^トも^ハあ^ハり^ニあ^ハり^ニあ^ハり^ニあ^ハり^ニ
 え^ハる^ハ

一^ニ子^ノ息^ト 字^ニ景^ノ玄^ノ子^ノ吾^ノ所^ノ生^ル者^ヲ故^ニ曰^フ息^トと^シて^ハけ^レん
 礼^ノ記^ノの^ノ行^ハは^リ湯^ノ生^ル曰^フ息^トと^シて^ハあ^ハれ^ハり^ニあ^ハり^ニあ^ハり^ニあ^ハり^ニ
 の^ノもの^ノ之^レ故^ニ也^トと^シて^ハあ^ハり^ニあ^ハり^ニあ^ハり^ニあ^ハり^ニ

一^ニ瓶^ノ治^ス 瓶^ノハ^ハこ^ノふ^トよ^シ治^ス字^ノ音^ノ野^ノ清^ノ
 鑄^ト匠^ノ誤^リ之^レ治^スと^シて^ハ誤^リと^シて^ハあ^ハり^ニあ^ハり^ニあ^ハり^ニあ^ハり^ニ
 鑄^ト匠^ノ誤^リ之^レ治^スと^シて^ハ誤^リと^シて^ハあ^ハり^ニあ^ハり^ニあ^ハり^ニあ^ハり^ニ

まりけに字ありと銀治の音し日本の俗字なり
 似るるゆへに呼く銀治の音をもんだる俗字
 字すくと別よ音しまり別と知れも古より誤
 々しれどもふれは今更及じしるよあはれ
 りしるまきむらさきしゆく可辨之

一 寡寡孤獨 孟子云老而无妻曰寡老而无子曰孤
寡切而无子曰孤老而无子曰孤之婦人曰寡
 寡切而无子曰孤老而无子曰孤之婦人曰寡

窓門

一 屏風 屏風之風と云ふとてその義はま

蔽やともいふなりけはゆとて風と云ふの義は

一行燈挑燈 行はゆとて挑はかぶるもいし挑

灯を挑灯といふ道行灯といふ燈ともいれ

るゆとて今ハ挑燈をいふ挑燈をいふ

燈ともいふも月ハあやまれぬやまるといふ

やまるといふやまるといふ行燈ハ燈音なり

一 管弦 けしきハ弦の音とて文琴は吹日

管柱曰結シラケネとあれハ管笛シラフエ感爾ヒナリキ葉寸ヒナリキ八寸物ヒナリキ
と管シラケネといハ琴コトビハ琵琶ヒハなるもの引物ヒナリキとびへ結ヒナリキと云

一珠玉シユキヨク なるは海シユキヨクと云んはしるは山シユキヨクなる

一碁盤ゴジ 碁盤ゴジと云んは高六寸長一尺四寸廣ヒナリキ
一尺四寸八分一月イチモクの分ゴジ七分ゴジ一年ゴジと云んは

之百六十目ヒナリキと盛ヒナリキ九曜ヒナリキと儀ヒナリキと云んは九ヒナリキの儀ヒナリキ
あり屋ヒナリキと云んは九ヒナリキの儀ヒナリキと云んは九ヒナリキの儀ヒナリキ

と云んは九ヒナリキの儀ヒナリキと云んは九ヒナリキの儀ヒナリキ
と云んは九ヒナリキの儀ヒナリキと云んは九ヒナリキの儀ヒナリキ

と云んは九ヒナリキの儀ヒナリキと云んは九ヒナリキの儀ヒナリキ
と云んは九ヒナリキの儀ヒナリキと云んは九ヒナリキの儀ヒナリキ

一雙六スガロク 兼ヒナリキ名ヒナリキ苑ヒナリキの首ヒナリキ王ヒナリキの形ヒナリキと云んは

天生ヒナリキと云んは波ヒナリキと云んは名ヒナリキ存ヒナリキ淨ヒナリキと云んは

厚ヒナリキ守ヒナリキ八ヒナリキ方ヒナリキと云んは廣ヒナリキ八ヒナリキ寸ヒナリキ十二ヒナリキ月ヒナリキと云んは

一尺四寸八分ヒナリキ又ヒナリキ十二ヒナリキの月ヒナリキと云んは天ヒナリキ地ヒナリキ人の心ヒナリキ
と云んは心ヒナリキと云んは心ヒナリキと云んは心ヒナリキ

内弁の二陣を成し一月を伺ふは五百二十
 の石あり日月は擲へ二の簀あり酒はれ
 之十三天よ表して筒の所を二寸五分よきる
 是日月れ行度を徳もあしこれと土の傳よ
 け肩を簀の目をみて地よと云則ち
 髪とき人二寸より四寸まで廣を八寸より
 重二と云く厚を厚よすといふと徳よ
 今代はばやうあすといふ割はとすら也

新倉門

一 沙糖 唐のあんし 唐蔗と云ふ唐人きくはあ
 りて蔗ハ油とりのごとく唐と云ふ象は好
 此菓を葱と云ふと沙糖といふ
 一味名 和名桑よけ末醬と云きて養糖の別
 本説不詳末ハ搗末の義ハはさくさき細末
 とも云ふ末醬といふ末と云ふハ常の物なり
 此れ又末を用ゆべきと字の相似くハはかりて
 末の字をのこすとも音を引て今ハ味の字をす
 醬と云ふとすうてわづまのぬはわづまといふ

一 繪 常よけの字を用ひ軽なるに生じぬ
奥をこころて敵をうくるぬふかくくもあきけ
日本紀より割鮮とあきてまはれはくもとも
これ野物の時のもし文選割鮮の二字をけけ
ごうけいをもまると清きりけりあひいれさ
けつをさうけくもさくもいれかひいれさ
一 衣裳 けりけりけりけりけりけりけり
衣をいれけりけりけりけりけりけりけり

一 道服 俗に衣裳のうへまのものをいへ
えんのみさうきものあひあはきまはあさ
雨衣道服ともいふあり雨衣は日本紀にあり
ぬと清き道服は道中の服を清くぬい
馬まはらきようちまきん帯をぬいぬい
これまに衣裳をけいと清きなり
一 襪履 小児乃便利なり
あられらふ衣なりぬいぬいぬいぬい
身曰襪履也 縋布為之 絡履小児を

康曰ホ襟小兒被ホやと云ト里

通言抄上之本

通言便蒙抄首卷之末

世間所用之文字訓解

言語門

一 監觴ラシ 物の始モノと云ト之シ監觴サカキハ觴ウカと云ト也

ヤ、心け家語曰ケ岷江ミナ初出於岷山ミナ其源少水可ミ

以監觴及入楚國ミ滄波シ万頃シ也非舟船不可ミ以涉ニ

之岷江ミナ大河也源岷山ミナ之流ミ廣セ大也

以東ミ大水ミ入楚國ミ又ミ入ミ千尋チ之河ミ

其物ミの付ミめと監觴ラシと云ト山谷サ待ミ也

岷江始監觴 入楚即無底

と他^ツもあらまほしけれ^イる勢^イもほしけれ

〜 望川^イもみぬ^イもさるぬれ

義^{コト}のいづれの^シ家^シと〜

一 平生^イ 論^ロ語^ゴ朱^シ子^コ注^チ云^ク平生^イ少^シ時^ト也^{ナリ}

一 若^カ親^キカ^リも衰^ス激^ビもぬ^レ平^イあ^ル時^トも子^コも^シ今^イ

俗^{ゾク}のい^ハる^ハも^ハ心^{ココロ}も^ハ死^シん^ド

一 既^マ久^{キウ} 後^ゴ漢^{カン}列^{レツ}傳^{テン}帝^{テイ}同^{ドウ}良^{リョウ}久^{キウ}歎^{タン}息^{ソク}〜

浪^{ナミ}甚^シ也^{ナリ}と云^クた^レれ^ルを^ハれ^ル〜

一 消^{シヨウ}息^{ソク} 書^{シヨ}法^{ホフ}と消^{シヨウ}息^{ソク}と^ハ子^コの^ハ消^{シヨウ}息^{ソク}と^ハ子^コの^ハ消^{シヨウ}息^{ソク}と^ハ子^コの^ハ消^{シヨウ}息^{ソク}と

消^{シヨウ}息^{ソク}と^ハ息^{ソク}と^ハ消^{シヨウ}息^{ソク}と^ハ息^{ソク}と^ハ消^{シヨウ}息^{ソク}と^ハ息^{ソク}と^ハ消^{シヨウ}息^{ソク}と

義^イと^ハ十^{ジウ}里^リ万^{マン}里^リの^ハる^ハ〜

す^レは^ハ不^フ定^{テイ}数^{スウ}教^{キョウ}と^ハり^ハ〜

の^ハ義^イと^ハ又^{マタ}隆^{リョウ}と^ハ孝^{コウ}善^{ゼン}往^{ワウ}消^{シヨウ}往^{ワウ}也^{ナリ}

一 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し

一 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し

一 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し

一 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し

一 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し 一^{イツ}し

一 料簡 レハケ けりあはむしこも事と終るん

とらふ事し又了當おしめしつらふもみらるる所なり

一 沙汰 サハタ いふことなりふはけり法は終すまじしゆは

く合ととらふもはもの沈又も明らるる所なり

一 道理 チ とらふは法すまじし

一 穿鑿 センサク 穿らうぐの鑿のこもみこいふ

書函の鑿めて根木もほりうぐいしとて深

くはしむしもの義

一 食言 シヤクゲン 食言彙千兼切皆也減也又衆共言

也やとらふは減けりこいふは衆なり食言

とらふは理とけりもの義

一 吟味 ギンミ 吟説又口説也と詩系シイカのぶらひ

吟味と終すといふは味いあらはしめり吟

味いなるもの義

一 評定 ヒョウテイ 評定有只論也ヒョウテイと終る論

理と評を定しむもの義

一 沈没 シヤウボツ 沈没し校字有依也と注しとらひ

とらふは沈没しとらひなりとらふは沈没

又なと出れぬまはけにも義利を盡くせしむるなり

どらうを洗ふすまの心也

一 必件 アイノクモツニイカ 儘書抄云 必件とはまじりぬるや

上より細くもつを結する所よりけいさよもろく

ありのの〜〜 種なをかきよと云の義なり 東大寺の

畜院上人に入唐記に衣裳一件と云きしなり

一 貝次員 ヒイキ 字音と考ふる小貝 貝音 避貝員 作可兒

とあらし力をつけし人と被らるるも貝員と云り

杜子美詩にも 韓蔡同貝員と他也

一 偏頗 ヒム ひむるもむるも 偏頗と文略に 行頗僻 注

頗傾也と云しまゝ 韻書 頗字下云 偏頗 不心也

あれ 道理不正もして かつおらして 貝員すると 偏頗

といふなり

一 荷擔 カカ 二字たよふふの心を用きしとも方々

時ハと云ふも 小あまし 法花文句云 在背為荷 在肩お擔

と云りし 荷ハ常ふもふも せんとも 世文句より 時ハ

擔ハふも 荷ハなふし 今云事 法に付て とも

と云らるるものと 花擔人と云し

一 逐電

いれえをなめとよめん電乃見えとつて
追のくもきこも跡とくま守と云の義しこれ日
たの世活なり

一 放埒

埒とをゆるし埒字景庫埒やと匠杖
乃住馬といふとあり馬とふとくの恒しが
の競馬なるの居らるる云心ば人のほなよか
ずして我まよする埒を放る馬のともと公事所
云乃居居たるを埒明らとせしげし馬の埒とあ
れと埒らるるを埒とゆとよするも埒らるるの義

一 安堵

按ふ小文選云百姓安堵四民不及業
呂延濟注曰堵墻也安其堵堵不失家業といふ
人たり所と安とて安く事業とせぬとよき

一 満足

いそと唱へぬへ一足の音の付子欲切人之足
也タルとよむ付の將樹反足の音なり不足と云
詞も不足なりしにぬるはより深き也
事なれん今又改母人きあはれんやうの事ん
まじりぬるもよし

通言抄上之末

一 勿俸 ^{モツタイ} 神 ^{カミ} ともひ ^{カミ} 正統 ^{テイチュウ} の義 ^{ガミ} 知 ^チ る

一 今 ^{イマ} 勿俸 ^{モツタイ} と ^カ かく ^{カク} ら ^ラ 大 ^{オホ} なる ^{ナリ} 徳 ^{トク} あり

一 等 ^{トウ} 閑 ^{カン} ち ^チ 儀 ^ギ たり ^リ と ^ヨ 儀 ^ギ たり ^リ 今 ^{イマ} 俗 ^{ゾク} なる ^ル 等 ^{トウ} 閑 ^{カン} なる ^ル 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

一 如 ^ニ 在 ^シ 二 ^ニ 字 ^ジ 一 ^ニ つ ^ツ 一 ^ニ 語 ^ゴ 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト} 一 ^ニ 在 ^シ 一 ^ニ 事 ^{コト}

暑^{シヨ}を^{サツ}く寒^{カン}を^{カシ}り^レし四季^{シキ}轉變^{テン}を^{ゼン}するは示^シされ^レ自^ジは^ジ

く^ニ終^シるの道^{ミチ}も^モこ^コ志^シねん^ンと云^ク初^{ハツ}め^メり^レ自^ジは^ジ

まり^カぬ^ルのみ又^マた^タは^ハは^ハし^シ志^シぞん^ンと^トは^ハ薄^{ハク}き^キ也^ヤ

志^シねん^ンと云^クは^ハ是^コの^{ラシ}言^ハは^ハる^レは^ハ唱^{ナウ}へ^ハ矣^{コト}と^ト字^ジの^ハ向^{コウ}ひ^シ

一^一神^シ女^メ ^五易^イ陰^{イン}陽^{ヤウ} ^六卦^{クワイ} ^七測^{ソク}之^ノ理^リ神^シ之^ノ又^マ中^{チュウ}庸^{ヨウ}鬼^キ神^シ

之^ノ為^タ徳^{トク}也^ヤ ^八陰^{イン}之^ノ美^ミ平^{ヘイ}之^ノ鬼^キ神^シ ^九之^ノ地^チ乃^ハ向^{コウ}ひ^シ充^{チュウ}満^{マン}

と^シて^シ伸^シ伸^シ性^シを^シする^レもの^ノに^シ終^シる^レ忽^{コト}然^{ゼン}と^シて^シ是^{コト}を^シ

と^シて^シ忽^{コト}然^{ゼン}と^シて^シ夜^ヨと^シり^レ忽^{コト}然^{ゼン}と^シて^シ是^{コト}を^シ

と^シて^シ何^{ナニ}の^ノお^ホり^レま^シり^レは^ハ初^{ハツ}め^メり^レ自^ジは^ジ

物^{モノ}忽^{コト}然^{ゼン}と^シて^シ止^トむ^レ忽^{コト}生^シと^シて^シ死^シと^シて^シ是^{コト}を^シ

神^シの^ノ所^{シヨ}行^{コウ}ひ^シて^シ造^{ソウ}化^カ自^ジ然^{ゼン}に^シて^シ是^{コト}を^シ

と^シて^シ充^{チュウ}満^{マン}と^シて^シ始^{ハツ}め^メり^レ自^ジは^ジ

と^シて^シは^ハ初^{ハツ}め^メり^レ自^ジは^ジ

と^シて^シは^ハ初^{ハツ}め^メり^レ自^ジは^ジ

と^シて^シは^ハ初^{ハツ}め^メり^レ自^ジは^ジ

と^シて^シは^ハ初^{ハツ}め^メり^レ自^ジは^ジ

と^シて^シは^ハ初^{ハツ}め^メり^レ自^ジは^ジ

通言抄ニテ

神志の妙なるをいし

一推量 けらるるをいし 洲のわたりをいし

等のものともいふ

繁昌 ハンジヤウ シダクサカチリ

柔和 ニウワ 二字共ニマワラカシ

嘉例 カレイ ヨキタメシ

懸懸 インギン 子シゴロト訓ス

交々 ケイカ 二字共ニヨロラ

丁字 テイジ 子シゴロト訓ス

結體 セイヒツ 二字共ニシツカ

喧花 ケンカ 二字共ニカハニスレ

名譽 メイヨ 名ノホニスレ

口論 カウロン 口ニテ論スルヲ云

綴尾 シュイ ナタメニス

未面 セキメン アカキヲモテ

殊を シュエン ウトクトモカ

以裁 テイダイ カシラニイタム

動將 ドウテイ ウゴキミヲ

母奴 ボヌ ナラボナシ

徳岡 トクウ 二字共ニキク

堅固 ケンコ 二字共ニカタシ

覚悟 カクゴ 二字共ニサトル

迷惑 メイワク マヨイマドフ

不覚 フカク サトサストム

成純 ジヤウジュン 二字共ニナル

救免 キウメン 二字共ニユルス

物候 モノウキ 二字共ニアガケル

恥辱 チヨク 二字共ニハナ

容儀 ヨウギ カタチヨソヲイ

光景 クワウキョウ ウラミヲノユス

不覺 フカク ノソムトヨロ

通言抄ニテ

九

通言抄上之六

群集 シラガアツル

恋慕 コイシダフ

寵愛 ニ字共ニイトラム

丹青 ガクイトラム

養育 ニ字共ニマシラフ

慈志 子言ノコト

福心 コトヲダツ

野心 イヤキコト

祈心 ココロヲ

祈法 ニ字共ニウツタス

憲法 ニ字共ニイリ

近法 シラケラサレ

安穩 マスコラダマカ

修理 ニ字共ニヲサス

披露 ヒラキアラハス

實心 ニコトニタツシ

僮僕 ニ字共ニモヨラス

張掛 ムスビカニル

不持 モテトヨ

兼引 ウケヒク

難談 ニシヘカス

不審 イフカレト訓ス

遠礼 タガイニシタス

教訓 ニ字共ニヲシヘ

諫言 イサメノコトバ

弘明 タビシキヲス

会秋 アイシラフコト

殊情 コトニスル

還俗 フクニカス

債安 カタヘノトモガラ

元服 ウチカサリト訓ス

利發 トクハナツ

潤理 コトハクワラフ
理ハスチメトモヨム

竈初 ソノカミト訓ス

智略 チハカリ

短氣 タンキ ミジカキイキ

用心 ヨウシン コヲモチテ

落意 ラクイ フチツリ

落居 ラクキョ フチス兄

憾患 カンニ タシゲ

澄初 サウドウ サハキウダク

心尖 シンセン フトナルフナシ

真切 マキキ フコシラフチ

秘密 ヒシツ ニ字共ニヒソカ

秘傳 ヒシツ ヒソカニツタ

秘苑 ヒシツ ヒソカニラサム

自誤 ジコ ミツカラホル

披見 ヒキ ヒラキミル

机切 キキ トリヲチラ

机半 キハ フテラトル

右筆 ウデ フテラトル

發起 ホツキ ニ字共ニヲヌ

休息 キウシツ ニ字共ニヤスム

勇健 ユウケン イサムスモカシ

追返 ツイヘン ニ字共ニトシテ

哲文 セツモン チカイノフミ

老言 ロウゴン ノコスコトバ

共粮 キョウリョウ ツモノカタ

合璧 カウヘキ カラアハス

改易 カイエキ アラタメカス

差別 サバビ タカイワカツ

風骨 フウボク ホノカニキツ

風流 フウリウ ホノカニトク

不圖 フト ハカラス

不圖 フト ハカラス

障碍 ショウゲ ニ字共ニサハリ

憾乞 カンキ ニ字共ニホロフ

憾乞 カンキ ウレヘイタム

熱傷 ネツショウ ウレヘイタム

支配 シイ 支配 シイ 支配 シイ

介錯 カイシヤク 介錯 カイシヤク 介錯 カイシヤク

配当 ハイタウ 配当 ハイタウ 配当 ハイタウ

後悔 コウクワイ 後悔 コウクワイ 後悔 コウクワイ

配合 ハイブエ 配合 ハイブエ 配合 ハイブエ

花柳 ヒキヤウ 花柳 ヒキヤウ 花柳 ヒキヤウ

肥満 ヒマン 肥満 ヒマン 肥満 ヒマン

子連 サウソク 子連 サウソク 子連 サウソク

充満 チュウマン 充満 チュウマン 充満 チュウマン

徘徊 ハイサイ 徘徊 ハイサイ 徘徊 ハイサイ

ち後 チゴ ち後 チゴ ち後 チゴ

常任 ジョウニ 常任 ジョウニ 常任 ジョウニ

清浄 セイジヤウ 清浄 セイジヤウ 清浄 セイジヤウ

近所 チカイソ 近所 チカイソ 近所 チカイソ

掃除 ソウジ 掃除 ソウジ 掃除 ソウジ

怪敵 ケイテキ 怪敵 ケイテキ 怪敵 ケイテキ

右 ミドリ 右 ミドリ 右 ミドリ

一栄 イチエイ 一栄 イチエイ 一栄 イチエイ

終日 シュウジツ 終日 シュウジツ 終日 シュウジツ

よ ヨ よ ヨ よ ヨ

よ ヨ よ ヨ よ ヨ

よ ヨ よ ヨ よ ヨ

よ ヨ よ ヨ よ ヨ

一橋 イチキョウ 一橋 イチキョウ 一橋 イチキョウ

君 キミ 君 キミ 君 キミ

一 自^ジ傍^シ げらあぬらう又傍^シのまゝにらう

よじし^{ゲイ}難^ナ然^シまうけしものこゝろを^ホ保^ツらうと

心^ホ保^ツく入^レるあぬらうと^ホ保^ツらうの^ホ保^ツらう

まし又字^タ倉^クの傍^バ情^シ也^タ怠^タしと^ホ保^ツらう

流^ヨし^ヨ中^チなりまけ^チ住^ク意^イも^チ申^スけ^テ入^レる^ホ保^ツらう

流^ゲまうけ^テ自^ジ傍^シす^ホ保^ツらうの^ホ保^ツらう

まゝらあぬらうと^ホ保^ツらうと^ホ保^ツらう

有^クか^ク寸^サぬ^ラは^シ自^ジ傍^シの^ホ保^ツらう

一 根^ネ藉^シ ぐらうが^クま^シ我^ガ根^ネの^ホ保^ツらう

やとま^シく^クま^シの^ホ保^ツらうの^ホ保^ツらう

とま^シく^クあ^ラは^シ根^ネ藉^シと^ホ保^ツらう

ま^シく^ク白^{ハク}氏^シ又^タ集^クま^シけ^テ浪^ナ迹^シと^ホ保^ツらう

よ^クあ^ラは^シう^ラ浪^ナの^ホ保^ツらう

よ^クあ^ラは^シう^ラ浪^ナの^ホ保^ツらう

へ^ク朗^{ラウ}詠^{エイ}集^シ詩^シは^シ流^{リウ}迹^シ根^ネ藉^シ風^{フウ}ね^シ及^ツて^ホ保^ツらう

も^ク和^ワ風^{フウ}そ^クあ^ラは^シ風^{フウ}物^{モノ}は^シ流^{リウ}迹^シ根^ネ藉^シ風^{フウ}ね^シ及^ツて^ホ保^ツらう

流^{リウ}迹^シ根^ネ藉^シ風^{フウ}ね^シ及^ツて^ホ保^ツらう

十一

一 機嫌 キケン 佛書よりなりけりけり字音核教

やとて善悪を乃勤さ出さぬとてし姫姫姫

やとてうががを有明さぬとてし姫姫

向の人れよりぶ氣さこまこ怒れる氣さこま

るくそれぞとてを機嫌をささるし一説

よけりけりきらふとてま地のきりまのさる

一 知音 チイン ねとさるよひしりけりけり伯牙と

さく琴のともありてま友は鍾子期と云ふの

あつとて音とてし伯牙とてしひるは志とてし

小あれは鍾子期やうて我の心とてし春の

とらふ志流中よりし洋の心とてし江河の

心とてしとて及鍾子期死ぬ伯牙絶を絶

す人さむいよと尋ねれば伯牙善く音とて

のさるれば心とて教するまの巻なりとてし

や故ま今暇なりとてしとて知音とてし

列子よりなりとてし張君量詩異郷を眼知音

少細柳於人先眼青とてし

一言法 ゲンゴヨ たるよとてしとてしとてしとてし

聖言抄上之末

四

論語曰食不語夜不言コトコト朱子任答述思辨言曰

言とありん海難すると語とひ自りと言と

りあかり

一 眩暈 スライジン け二字もなまぬまぬとあれも 眩暈文坐夜

也とあれはひぬあると 眩暈字有命同也と注あり

一 饑饉 キケン 朱子注飢は穀不熟日饑菜不熟日

饑とあれは穀不熟なるを饑といひ菜大

根乃穀の多なるを饑とて 穀菜はよあ

れと饑饉とありあり

一 淋瀝 字春注瀝とて水と出ると云義と却

ちけふとて注あり

キマウコウ

イ

イ

タイ

イイキ 記子向及也

キヤムニ
シヤルヤノ
シヤルヤノ

シヤルヤノ
シヤルヤノ
シヤルヤノ

一 倭約 シヤルヤノ 約は倭のやうに倭は何れも解云云

一 倭約 シヤルヤノ 約は倭のやうに倭は何れも解云云

一 倭約 シヤルヤノ 約は倭のやうに倭は何れも解云云

一 倭約 シヤルヤノ 約は倭のやうに倭は何れも解云云

一 上子下子 シヤルヤノ 國基を起す

一 倭約 シヤルヤノ 約は倭のやうに倭は何れも解云云

一 倭約 シヤルヤノ 約は倭のやうに倭は何れも解云云

一 倭約 シヤルヤノ 約は倭のやうに倭は何れも解云云

一 フクゲキ 总割 シヨ 字倉と考ふ カクワ 总急處や ハイキアデル 割難也

エツト けしはくさる事 シヨ 出まき シヨ りて シヨ づら シヨ せ シヨ あり シヨ け シヨ せ シヨ せ シヨ せ

一 シユビ 首尾 シユビ 首から尾まで シユビ けし シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け

シユビ ち シユビ 子 シユビ 記 シユビ ま シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け

シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け

シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け シユビ け

一 シユビ 不詳 シユビ 幸の シユビ じ シユビ じ シユビ じ シユビ じ シユビ じ シユビ じ シユビ じ

シユビ じ シユビ じ シユビ じ シユビ じ シユビ じ シユビ じ シユビ じ シユビ じ

一 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞

シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞

シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞 シユビ 兼乞

一 シユビ 振舞 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食

シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食

シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食

シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食 シユビ 兼食

といふ事柄なるも偏^{ヘカテ}あり同^{ドウ}なる事
一 指^{サシ}也といふ事通^{ツウ}し善^{ニキ}悪^クなる事
を考^{カウ}へばなる事

一張^{イチヤウ}の けりたる事強^{キヤウ}主張^{シヤウ}なる事奇^キき

執^{シツ}の舎^{シヤ}をも主人^{シユジン}命^{メイ}をりてさる事執^{シツ}りたる事
也 莊^{シヤウ}子^シ天^{テン}運^{ウン}篇^{ペン}云^{クニ}執^{シツ}主^{シユ}張^{カウ}是^シ執^{シツ}網^{コウ}維^イ是^シ主^シ
張^{カウ}と云^{クニ}は主人^{シユジン}命^{メイ}を張^{カウ}と云^{クニ}の心^{ココロ}也

一 風俗^{フウゾク} 四書^{シシヨ}大全^{ダイケン}云^{クニ}上行^{コウコウ}下^カ效^{コウ}謂^{イフ}之^ノ風^{フウ}民^{ミン}志^シ一定^{イチテイ}謂^{イフ}

之^ノ俗^{ゾク}也 世俗^{セキゾク}の勢^{セイ}ひ上^{ウヘ}流^{リウ}なる事のあはれは俗^{ゾク}なる事
事^{コト}わくも然^{シカドモ}るやわくもさる事^{コト}は時^{トキ}いよとまはる下^カ

なる事は民^{タミ}これとらして事^{コト}あはれを風^{フウ}と云^{クニ}は

民^{タミ}の志^シ一定^{イチテイ}は定^{サダメ}むこれと俗^{ゾク}と云^{クニ}は俗^{ゾク}なる事

一 風流^{フウリウ} 松^{マツ}仙^{セン}窟^{クツク}より流^{リウ}したる事

はも別^{ベツ}ありやさきことと云^{クニ}

一 尋常^{ジンジョウ} よのつひに別^{ベツ}ありたる事

とよのつひに別^{ベツ}ありたる事 尋^{ジン}常^{ジョウ}は別^{ベツ}ありたる事
彙^イ尋^{ジン}常^{ジョウ}字^ジ下^カは俗^{ゾク}謂^{イフ}庸^{ヨウ}常^{ジョウ}曰^{イフ}尋^{ジン}常^{ジョウ}と云^{クニ}

ゆるよまゝこの容儀をなやめると尋常なり
やりのされともつひと云御もてさる御けり
を別ははる常射と申りしそ又よりのれ
射子と云事又は非どあ尋常乃羽張り来
しころふやえおれ又古文布在東時尋常
之汚漬もくも往八人尋常倍尋常尋常とあり是
まゝ通かこゝをゆき

一 折角 角と折ると作り物も精を印心を
するをさしむり前漢元帝乃時徳をのて

議論さるは時よ五藤乃兎家と云のありて辯
けり法儒これを拒りあつらぬ朱雲と子の
をへし海程さしむ朱乃五藤夫ととりひを
諸儒法と曰五藤岳と朱雲折と角と故云

一 兎角 うさぎの角とよひし心は兎は角
かさこのしされ兎や角あつらぬと云ふ
有ゆき事ゆき事ゆき事ゆき事ゆき

一 面白 面白とよむ昔日神天の雲人ふん
花とよむい世界と聞とれとを諸神

あみみあひあはれあはれなるを^{ニホ}神^{カク}を
あひあはれあはれなるを^{ニホ}神^{カク}を
あひあはれあはれなるを^{ニホ}神^{カク}を
あひあはれあはれなるを^{ニホ}神^{カク}を
あひあはれあはれなるを^{ニホ}神^{カク}を

一 換^{アハ}換^{アハ} 出所^{ニツ}を^{ニツ}守^ヨ字^カを^カ換^{アハ}換^{アハ}也
換^{アハ}換^{アハ} 出所^{ニツ}を^{ニツ}守^ヨ字^カを^カ換^{アハ}換^{アハ}也
換^{アハ}換^{アハ} 出所^{ニツ}を^{ニツ}守^ヨ字^カを^カ換^{アハ}換^{アハ}也
換^{アハ}換^{アハ} 出所^{ニツ}を^{ニツ}守^ヨ字^カを^カ換^{アハ}換^{アハ}也

一 合^カ合^カ 合^カ合^カ 合^カ合^カ 合^カ合^カ
合^カ合^カ 合^カ合^カ 合^カ合^カ 合^カ合^カ
合^カ合^カ 合^カ合^カ 合^カ合^カ 合^カ合^カ
合^カ合^カ 合^カ合^カ 合^カ合^カ 合^カ合^カ

一 上^ウ上^ウ 上^ウ上^ウ 上^ウ上^ウ 上^ウ上^ウ
上^ウ上^ウ 上^ウ上^ウ 上^ウ上^ウ 上^ウ上^ウ
上^ウ上^ウ 上^ウ上^ウ 上^ウ上^ウ 上^ウ上^ウ
上^ウ上^ウ 上^ウ上^ウ 上^ウ上^ウ 上^ウ上^ウ

一 故^コ故^コ 故^コ故^コ 故^コ故^コ 故^コ故^コ
故^コ故^コ 故^コ故^コ 故^コ故^コ 故^コ故^コ
故^コ故^コ 故^コ故^コ 故^コ故^コ 故^コ故^コ
故^コ故^コ 故^コ故^コ 故^コ故^コ 故^コ故^コ

ぢかれよの^{ハシラ}桎^{カシ}の^{アツメ}勢^{カシ}を^{カシ}集^{カシ}く^{カシ}修^{カシ}理^{カシ}寸^{カシ}朱^{カシ}雲^{カシ}直^{カシ}臣^{カシ}
つら^{コト}事^{カシ}と^{コト}後^{カシ}臣^{カシ}よ^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と
折^{カシ}檻^{カシ}と^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}あ^{カシ}衆^{カシ}求^{カシ}よ^{カシ}ら^{カシ}ん^{カシ}たり

一 突^{カシ}見^{カシ} 突^{カシ}と^{カシ}て^{カシ}ゆ^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と

見^{カシ}ら^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と
汝^{カシ}と^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}

一 愚^{カシ}量^{カシ} あ^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と

論^{カシ}徳^{カシ}子^{カシ}貢^{カシ}向^{カシ}公^{カシ}賜^{カシ}や^{カシ}何^{カシ}れ^{カシ}る^{カシ}白^{カシ}女^{カシ}也^{カシ}

一 愚^{カシ}量^{カシ} あ^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と

一 愚^{カシ}量^{カシ} あ^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と

一 愚^{カシ}量^{カシ} あ^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と

一 愚^{カシ}量^{カシ} あ^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と

一 愚^{カシ}量^{カシ} あ^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と

一 愚^{カシ}量^{カシ} あ^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と

一 愚^{カシ}量^{カシ} あ^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と

一 愚^{カシ}量^{カシ} あ^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と

愚^{カシ}量^{カシ} あ^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と

愚^{カシ}量^{カシ} あ^{カシ}ら^{カシ}し^{カシ}の^{カシ}意^{カシ}あ^{カシ}ん^{カシ}ぬ^{カシ}さ^{カシ}た^{カシ}よ^{カシ}人^{カシ}を^{カシ}侍^{カシ}ら^{カシ}と

一 母果 イシダラ 浮屠氏フツトシの教ウチへよお生オウシキを母位イシと云イハ生シ
 と果位クワと云イハ生シを本ホンの美ミと云イハむなムナ母ハハを花ハナ
 云イハるク子コのシ生シをサキ花ハナと云イハるク子コのシ生シ
 の義イし神道シンタウ枝祠エダニ母ハハを花ハナと云イハるク果クワと本ホンの候コト
 よイ母ハハと云イハるク子コのシ生シと云イハるク

一 方便 フウベン これも佛者ブツキヤのイと云イハるク方便フウベンと云イハるク
 引ヒキり佛ブツをイらクと云イハるクおオやヤほホりリと云イハるクおオと云イハるク
 らラと云イハるク又マタと云イハるク引ヒキりリと云イハるク

一 卒尔 ソツジ 湯ユと云イハるク進シム篇ヘン子シ湯ユ卒尔ソツジ而ニ對トシてシ注チウ
 輕遠ケイエン之ノ見ミと云イハるクおオれレがガいイりリと云イハるクきキと云イハるク卒ソツ
 めメはハ引ヒキりリと云イハるク

一 和贖 ワボク 和ワなナらラがガ贖ボクひヒらラまマと云イハるク孝カウ經キヤウ
タミモチイテワカシ 民用和贖タミノイニワカシと云イハるク
 一 發誓 ケイゴ 發ハツ戒ケイ之ノ固コ也ヤと云イハるクおオほホと云イハるクおオと云イハるク

一 後言 ゴゴン 荀ケン字ジ云イハるク湯ユはハ日ニチ然ゼンと云イハるク湯ユはハ日ニチ然ゼン
 一 事 コト 事コトと云イハるクおオと云イハるクおオと云イハるク

一 合力 カツリキョク 力チカラと云イハるクおオと云イハるクおオと云イハるク

賦也より物たるものこと詠詠の詩は竹皮合紙
錦江をよみけりし侍乃らもお祭の落る声
よはのよほおを扱へく力を合をさるるよし

一 沃山 沃は沃し沃は沃し沃は沃し沃は沃し
生すものもれども生かぬ

一 香煙 香煙は香煙なり香煙は香煙なり
諸人作事故云香煙は香煙なり

一 守 守は守り守は守り守は守り守は守り
守は守り守は守り守は守り守は守り

通言便蒙抄附卷之末

難字出所詳論

一 掃 掃は掃く掃は掃く掃は掃く掃は掃く

掃は掃く掃は掃く掃は掃く掃は掃く
掃は掃く掃は掃く掃は掃く掃は掃く

掃は掃く掃は掃く

一 律義 律義は律義なり律義は律義なり

律義は律義なり律義は律義なり
律義は律義なり律義は律義なり

律義は律義なり律義は律義なり
律義は律義なり律義は律義なり

都といふはもとてあつたに今世俗は悪癖を味乃軍
と律義一偏の役しんとするは
濫なるもやされども生息し行く操さるる直

のありませし通すべしや

一 僭 僭するは礼安國を賊服貴服之僭

上僭と云ふは國を賊やせしむるは賊と云ふ
キニ高位ノ體と云ふは僭するの謂なり

一 執 執るは情を理に就けしむるは義也

と云ふは情を理に就けしむるは義也

一 江帥 大江匡房卿の事を宰帥と云ふは
江帥といふは江帥といふは江帥といふは

江帥といふは江帥といふは江帥といふは
江帥といふは江帥といふは江帥といふは

江帥といふは江帥

一意気 世俗乃強はるるは
一意気といふは一意気といふは一意気といふは

一意気といふは一意気といふは一意気といふは
一意気といふは一意気といふは一意気といふは

一 安排 食味乃加減と云ふは馬伯庸詩云
安排といふは安排といふは安排といふは

安排

白毛紅豆巧お排ハクモウカワテシクミナシクく安置チやと往キて行くもむ
排ハクはひらきと流ヨムやい心置ラキく人ヒトらあてんあ
申ウカふしすを安排アライといふ

一 間カン 酒サケ茶チャなどのあきぬきと能ヨキ人ヒトあはかん
と云イハ間カン乃ノ字ジと申ウカしつゝ寒サムイ屋ヤの間マとよき程ほどは
とらと云イハんや又一マタ説セツは醉サケ乃ノ字ジと申ウカしと云イハふ
はさはとよみ酒サケの感サカンなるも云イハふ
んわくく一ヒト無ム無ムも一ヒト醉サケ乃ノ字ジと申ウカし
兼カミなるものいふは

一 風時カゼトキ あまの川カハが流ナガるもカ成ナリの義ギ女メ
あまの川カハが流ナガるもカ成ナリの義ギ女メ
さくく又マタ威イ勢セイありて世ヨと云イハふ時トキ乃ノ
字ジと書カけり

一 醒サト醒サト 祈イノ言コトの落ラク居キヨ乃ノ醒サトするを云イハし
文モン醒サト醒サトと流ナガるもカ成ナリの義ギ女メ
線センと云イハふ物モノと流ナガるもカ成ナリの義ギ女メ
一 懸ケン隔ガク 乃ノ席セキ説セツと云イハふ懸ケン隔ガクと侍サマり

一 追従 ツイヨウ 追ひまゝと清く従ひ人非道と云

おのゝ婿 ユビ 婿の公事誠まじやうしおんは

向ふ人の詞 コトバ 従物と云

一 窶 マツス 字書窶貧無禮と往きれば貧乏の物と

略すと窶と云ふ詩經よし終窶且貧と云

一 種く砂多 ユヱトサタ けつて書べきや出所不明な

かゝる云書のは種く砂多と云ふ及湯と云

種く砂多と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

一 訛 シホ 思人の声と云ふ地書物云摩訶止観

訛と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

一 大浩 コハカ 口海と云ふ詞乃高多と云ふと云ふ

窶と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

私言 シゴフ 耳語 ミミゴト 可憎 アカテラ 可笑 ウケカシ 可惜 アタタリ

佛 ブツ 浮雲 ウヅクモ 寵乞 イソキカシ 寂乞 イソトシ 麁面 ソレナレ

斤時 シツジ 何時 イツカ 往時 ムカシ 少壮 ワカサカリ 若菜 ワカマリ

散聚 アラクケル 分 ヅク 周章 アハツル 向後 ムラスエ 時勢 イニマツ

東西 アチタモチ 去過 チラハ 两舌 イツカリ 不忍 イフリ 所縁 ユカリ

通言長手集

三

未審	白眼	莞尔	何不别	生長	可也	半面	行迹	愁心
寫景	煩熱	迷臆	掉頭	交尾	草似	指南	世間	マシクナレ
神仙	自在	惘然	不行	夙交	有情	望姓	習氣	
天命	移徙	忽滑	不手留	家媚	月下	風流	方便	
真似	不結	龍音	離く	乞執	羞明	所行	聲花	

一熟 万葉よりいり他人の事は業を思ふ思ひ
みぢり守侍の人を熟する者と云はれり

ツハアコ万葉よりいり

猿三鴨似

痛醜賢良ステ酒不飲人ヲ熟ハ不見カモ惚

一熟 旨 食物の風味よきことし海と云ひまこと

切の事のみまは法濟しと云ふことし

論語云子羔學未熟習と云ふ又云食旨

不甘くい等れ文と云はれ熟も旨したまふ

と云ふも食物のうまは旨なる字を用ひ所化れ

しと音取らひひきこもるるもつらふんもあらんを
なると此認もあひるも思ふも一粹乃字
なると一粹字書精ニセイサリ也ニシラ不雜也と任して
あつたくりつやも読ふとつらふんを
くまおそてきりくもぬけさるるの
あつたくりつやも読ふとつらふんを

一進疾スドレ 字林まなをり進スドレも心疾は

心スドレとよかんをん叶へり

一率アテカ は字二の音ありアテカ 諸國の率命所といふあり

ムカシの義しツツの音のときハひきこもるるも
引率ヒラツなると續ツギたり凡ラヨゆるも音ユよりて讀ヨミの心と
ふん訓ヨミよりて音ユのらふは字多一タヒ雅タヒハ

度 トノ音ノ片ハ 各ワル

數 ヒノ音ノ片ハ カズ

樂 ラクノ音ノ片ハ タクム
カクノ音ノ片ハ 子ガフ
ガクノ音ノ片ハ 樂器ニカシ

齊 セイノ音ノ片ハ トナフ
サイノ音ノ片ハ モノイミ

易 イノ音ノ片ハ アスレ
エノ音ノ片ハ カル

惡 アクノ音ノ片ハ ワロシ
ラノ音ノ片ハ ニクム

龜 キノ音ノ片ハ カメ
キンノ音ノ片ハ カム

積 ヒノ音ノ片ハ ツム 造作ノ義ニ
シノ音ノ片ハ ツミ 自然ノ義ニ

は等れコシラ 難タガより 准ヨシへも 又 訓ヨシの心ヨシより

平字の反字あり反し平字なる事あり

空 平ノ片ハ フラ ヲナシ
反ノ片ハ アチ ウネ

不 平ノ片ハ イナヤ
反ノ片ハ ヒズ アス

思 平ノ片ハ ヲモラ
反ノ片ハ ヲモイ

先 平ノ片ハ コヅ サキ
反ノ片ハ サキダツ

長 平ノ片ハ ナカシ タケ
反ノ片ハ ヒトヒ ヲサ

縦 平ノ片ハ タテサニ
反ノ片ハ ホレイニ

教 平ノ片ハ セシム
反ノ片ハ ヲシユ

遺 平ノ片ハ ノコル
反ノ片ハ ヲクル

荷 平ノ片ハ ハナス
反ノ片ハ ニナフ

間 平ノ片ハ アイダ
反ノ片ハ ヘダツ

重 平ノ片ハ カサス シキ
反ノ片ハ ヲモシ

衣 平ノ片ハ コロモ
反ノ片ハ キル

中 平ノ片ハ ウチ ナカ
反ノ片ハ アタル

一尾龍 或況云 意神 天皇御神 此末あり

一放 放の音あり

一放 放の音あり

一放 放の音あり

一放 放の音あり

一放 放の音あり

一放 放の音あり

危殆也ヒロタナリと仰オホせられしはシらり始ハジまれりト云ク

海神カイジンのス業ノとシ地神チジン四シ代ノ彦ヒコ火ホくテ出デ身ミ尊ノ此コト也ナリ

鶉ウツノ好キ膏アハ不ハ合セ尊ノ海ウミ若ワカ女メ豊トヨ玉クニ姫ヒメ乃ト所ヨ子コはレ也ナリ

一非愛ヒアイ 經タニ直リヨとシてク危ヤきク事コトとシてク塔アイノ婆ウ也ナリ

如ニ所ヨ信タカ守シ保ホ式シキ烈レツ云ク皇ミコの心惡アク性セウ也ナリと

本ホの心をシ射イ落ラツ一ツ爪ツメをテ握ニくテ土ツチ城シロをシめテ子コ

女メ後ノをシ見ミ人ヒトとシてク水ミヅ流ナガくテ針ホコとシ

刺サ殺コロ一ツ事コトとシてク請コトをシてク水ミヅ流ナガくテ針ホコとシ

とシ書キらレりのあらとシてク非ヒ愛アイとシてク事コトとシてク也ナリ

一用捨ヨウセ 用モチ捨スツとシてク用モチ捨スツとシてク也ナリ

用モチ捨スツとシてク用モチ捨スツとシてク也ナリ

用モチ捨スツとシてク用モチ捨スツとシてク也ナリ

一朝戲チウケ 朝チウ戲ケとシてク朝チウ戲ケとシてク也ナリ

朝チウ戲ケとシてク朝チウ戲ケとシてク也ナリ

朝チウ戲ケとシてク朝チウ戲ケとシてク也ナリ

道戲ドウケ 道ドウ戲ケとシてク道ドウ戲ケとシてク也ナリ

道戲ドウケとシてク道戲ドウケとシてク也ナリ

道戲ドウケとシてク道戲ドウケとシてク也ナリ

道戲ドウケとシてク道戲ドウケとシてク也ナリ

道戲ドウケとシてク道戲ドウケとシてク也ナリ

道戲ドウケとシてク道戲ドウケとシてク也ナリ

道戲ドウケとシてク道戲ドウケとシてク也ナリ

優長 ユウチャウ ユタカニナガシ

廣言 クワケン ヒロキコトバ

養介 ヤカイ ヤシナイタスル

鷹揚 トウヨウ タカアガルトヨムシ鷹フ

輕薄 ケイハク カルクウスレ 情ノカルキ人ヲ云シ

岩壘 ガンレイ イハタニトヨム健正義

怪動 ケドウ 片シクウゴリ

物怪 モノケ モノケ

無骨 ムボウ ホ子ナシトヨム其道ニ 骨ヲ抑ヌモノヲ云シ

悉皆 シツケイ コトククニナ

變改 ヘンカイ カヘアラタム

改易 カイエキ アラタカハル

時宜 ジギ トキニヨロシ

調義 テウギ 義ヲトメフル

時代 ジダイ トキヨ

必至 ヒツシ カナラズイタル

推舉 スイキョ フラグル

次舉 ジキョ フキアグル

媒介 バイケイ ナカタチ タスル

絶入 ツツエ タハイル

滿遍 マンベン ミチアヒニキ

互用 ゴウヨウ タテモチシ

寬濶 ケンクワク ユタカヒロシ

暉爍 キレツ 暉ハヒカル 兼ハニヤビヤカ

怪知 ケチ アヤキヲヒ

卑劣 ヒレツ イヤシクヲトル

一駢 アハチ 文選馬駢解是 アハチ 海よりまき アハチ 蹠乃字也

色 アハチ 色

一賺 アハチ 小兒 アハチ 心 アハチ 心 アハチ 心 アハチ 心

字 アハチ 字 アハチ 字 アハチ 字 アハチ 字

通雅

一 禁 ニホニキ 日記 ニホニキ のかんごり ニホニキ まる ニホニキ 史記 ニホニキ のけ ニホニキ 厭 ニホニキ

一 尤右 トモカウモ 百 ニホニキ 廿 ニホニキ 二 ニホニキ 人 ニホニキ あり ニホニキ 東南 ニホニキ と ニホニキ 寺 ニホニキ あり ニホニキ 海 ニホニキ

かき ニホニキ 海 ニホニキ あり ニホニキ 流 ニホニキ あり ニホニキ

東行南行雲 トウカウナンカウクモ 射 ベウク 二月 ジゲツ 三日 サゲツ 日 ニチ 遅 チ

二月 ニゲツ 三日 サゲツ 日 ニチ 遅 チ

一 調 テウ 汰 タイ 洗 セン 揃 ソウ け ケ 四 シ 字 ジ 事 ジ あり アリ 又 マタ あり アリ 物 モノ

と ト 具 キ 一 イツ 本 ポン あり アリ 時 トキ あり アリ の ノ 字 ジ あり アリ 調 テウ の ノ 字 ジ あり アリ

細 ホソ あり アリ 物 モノ と ト 汰 タイ あり アリ 汰 タイ の ノ 字 ジ あり アリ 舟 フネ と ト 汰 タイ

また マタ 汰 タイ の ノ 字 ジ あり アリ 樹 キ と ト あり アリ また マタ 揃 ソウ の ノ 字 ジ あり アリ

書文	攪水	早興	搔餅
右筆	執柯	秉燭	握刀
彈琴	彎弓	挽木	牽牛
酌酒	汲水	接塔	組糸

通言抄

士

通...

綖	擗	磨	窈	噸	堯	潞	揚	狩
<small>或ハ主君或父兄スベテ</small>	<small>城</small>	<small>鏡</small>	<small>鳥</small>	<small>口</small>	<small>声</small>	<small>河</small>	<small>名</small>	<small>春</small>
	調	硯	繕	頻	生	渡	扛	蒐
	<small>菜</small>	<small>刀</small>	<small>綿</small>	<small>眉</small>	<small>火</small>	<small>海</small>	<small>鼎</small>	<small>爰</small>
	刷	勣	脫	即	中	撞	矯	旼
	<small>馬</small>	<small>刀</small>	<small>衣</small>	<small>位</small>	<small>風</small>	<small>鐘</small>	<small>首</small>	<small>秋</small>
	吼	翕	卸	着	當	築	舉	獵
	<small>牛</small>	<small>鳥</small>	<small>甲</small>	<small>座</small>	<small>時</small>	<small>土</small>	<small>帆</small>	<small>冬</small>
	吠					昇	昇	
	<small>犬</small>					<small>位</small>	<small>位</small>	

送人贈詩文饋

かやりのくさぬ散すすあせ

一欲く 欲く志きとらん 欲の字とほらめりし

しもあがりすけりし 洲音と重説すも綱万

葉と欲乃字をりし 心むりや同くも七万紫

雨と収めしに

我欲一雨は海をぬく わるあまはととて卒

ハ第ハ心 けんあましし 雨は海らと収めし

かやりのくさぬ散すすあせ

...

一 養 ^ク 下等のもの物とあつてとて日本紀

一指 ^{サス} 興 ^ニ 物 ^ノ 府 ^ノ 祝 ^シ 文 ^選 率 ^直 指 ^と
あり昌向住指行也とてより此の義

一 黒心 ^{キタク} 日本紀あるよりあり贓 ^テ 乃 ^字 とも申し
はらわぬの義とあつては心也とて物乃

一 落索 ^{ラクサク} たらちるとよして禮記注 ^ニ 索 ^ニ 教 ^也 と云ふ
解らるりてきこふ事入贓 ^ノ 字 ^と 申し

一 娼嫖 ^{ウヤウヤ} 娼 ^ハ 音 ^{チヨウ} 嫖 ^ハ 音 ^{ダウ} とてはるゝは娼 ^ハ 音 ^{チヨウ} とてはるゝは嫖 ^ハ 音 ^{ダウ} と
字 ^割 ともりてはるゝは娼 ^ハ 音 ^{チヨウ} とてはるゝは嫖 ^ハ 音 ^{ダウ} と
はるゝは娼 ^ハ 音 ^{チヨウ} とてはるゝは嫖 ^ハ 音 ^{ダウ} と

鼎 ^{ハク} ウルハシキメ	白 ^{キヨク} アキラカ	娼 ^{ウヤ} ウヤカ	言 ^{タラ} モノイヒ	炎 ^{エン} アツレ	月 ^{ツキ} サユル	鼎 ^{テイ} アキラカ	風 ^{フウ} フトク	焮 ^{エン} ヒガキ
籛 ^{セン} クニ	森 ^{シン} フク	孛 ^ヘ フクゴ	心 ^{シン} ウヤカ	林 ^{リン} ハヤレ	鼎 ^{テイ} アキラカ	風 ^{フウ} フトク	焮 ^{エン} ヒガキ	
籛 ^{セン} クニ	馬 ^{ウマ} ハシ	孛 ^ヘ フクゴ	女 ^メ カレシ	口 ^{クチ} ヨバ	風 ^{フウ} フトク	焮 ^{エン} ヒガキ		
籛 ^{セン} クニ	孛 ^ヘ フクゴ	孛 ^ヘ フクゴ	男 ^{オトコ} タカレ	拜 ^イ フカム	焮 ^{エン} ヒガキ			
	孛 ^ヘ フクゴ	孛 ^ヘ フクゴ						

通言抄中之ホ

一無鵬次 トモラツレ 佛ありしる辯 コトバ 物 モノ して出家 シツケ 八年日

すく寸一 ゲ 復九十日 アゴ 安居 キンソク 不足 ニキマ して修行 シユキウ ともて

敷 ツモ 乃 ナラ 終 ハシ り キ 次 ジ 字 ジ 位 イ を ヲ 定 サ じ シ と ト 鵬 ラツレ 次 ジ と ト 云 ク じ

み ミ け ケ 修 シユ り リ と ト 云 ク され レ とも ト 僧 ソウ 正 セイ 僧 ソウ 都 ト なる ル の ノ 高 カウ 位 イ だ

い イ け ケ き キ の ノ せ セ れ レ も モ 云 ク 居 ル を ヲ 鵬 ラツレ 次 ジ と ト 云 ク じ

一 トモ 字 ジ 詮 セン 評 ヒョウ 論 ロン 理 リ 也 ヤ と ト 云 ク され レ 事 ジ 理 リ と ト 云 ク じ

論 ロン 一 トモ 也 ヤ と ト 云 ク され レ 事 ジ 理 リ と ト 云 ク じ

一 トモ 魁 ケイ 弱 ジュク 兼 ケン 子 シ 弱 ジュク 之 ノ 魁 ケイ 注 チュ 瘵 サイ 疾 シツ 人 ニン 也 ヤ と

あれ アレ け ケ 月 ツキ 月 ツキ を ヲ よ リ け ケ 子 シ 弱 ジュク 兼 ケン 子 シ 弱 ジュク 之 ノ 魁 ケイ 注 チュ 瘵 サイ 疾 シツ 人 ニン 也 ヤ と

小 コ や ヤ と ト 云 ク 又 マタ 下 カ 学 ガク 兼 ケン 子 シ 弱 ジュク 兼 ケン 子 シ 弱 ジュク 之 ノ 魁 ケイ 注 チュ 瘵 サイ 疾 シツ 人 ニン 也 ヤ と

わ ワ り リ 終 ハシ る ル 俗 ソク 魁 ケイ 弱 ジュク の ノ 魁 ケイ 注 チュ 瘵 サイ 疾 シツ 人 ニン 也 ヤ と

より ヨリ の ノ 魁 ケイ 注 チュ 瘵 サイ 疾 シツ 人 ニン 也 ヤ と

より ヨリ の ノ 魁 ケイ 注 チュ 瘵 サイ 疾 シツ 人 ニン 也 ヤ と

一 トモ 頑 ケン 心 シン 不 フ 則 ソク 德 トク 義 ギ 經 キョウ と ト 云 ク され レ 也 ヤ と

編 ヘン 詩 シ 經 キョウ 維 ヰ 是 シ 編 ヘン 心 シン と ト 云 ク され レ 也 ヤ と

目 メ 録 ロク 万 マン 葉 エフ 日 ニチ 斜 カ 月 ツキ 斜 カ と ト 云 ク され レ 也 ヤ と

不 フ 祥 ショウ 日 ニチ 本 ホン 紀 キ と ト 云 ク され レ 也 ヤ と

心 シン 采 サイ 心 シン の ノ 動 ドウ 所 ショ を ヲ 云 ク され レ 也 ヤ と

心 シン 采 サイ 心 シン の ノ 動 ドウ 所 ショ を ヲ 云 ク され レ 也 ヤ と

いれと用ひらるるも所はる所きよめ基
經乃經字キヨウらるる寸

門
觀ノゾク 幹ウチカラ 征シテウ 綽ヲシカヘス

粘ツグ 駁入ハシヨム 飛トバス 闕トムル

捺ウチキル 辟ウツル 點ナカテ 抑ヲサユル

断タチキル 跨マシユル 持チ 打ウチ

の彫り物ウツキ 暴乃綱ウツキ

成ナル 張ハル 突ツク

重一チツチ 重二チツチ 朱三シユ 朱四シユ
ハニツハ古宗ノ件重三重四
在ノ藏人ニシテ目三朱ヲ升セリ

重五チツチ 疊六テイワロク 莖ヒ 欠カケ 淀イシ 後ノチ 下シタ 端ヘ

一 愧ホシ 文フミ 愧ホシ 愧ホシ 失度シツド 待マツ 待マツ 善ヨシ 注ツ

愧ホシ 失意シツイ やヤ 釈シヤク ぎり

一 異物ケナモノ 人ヒト 不フ びるビル 視シ 怪ケ 抄シヤウ 云イフ 異物ケナモノ とト 凡ソノトモニ

群グン ますマス ぐグ 凡ソノトモニ 常ツネ 又マタ 異イ ちるチル 物モノ とト 凡ソノトモニ 同ドウ しくシク

一 直下ミラロス 白シラ 氏シ 又マタ 集ツク 又マタ 直下チカト 底ソコ とト 怪ケ 衆シュウ

まマ 向ムカフ 上ウヘ とト 奇キ しくシク 人ヒト おオ ぐグ しくシク しくシク しくシク

一 簾抹

簾ハワキと云ひ抹ハ海草と云

云申簾窓と云ハ窓より今俗の云ハ

ハ云ハ窓の丸

一 侍若無人

侍ハカガシラト云ハ侍の

人ハカガシラト云ハ侍の

人ハカガシラト云ハ侍の

一 鍛錬

鍛錬ハ鍛錬ト云ハ鍛錬の

人ハ鍛錬ト云ハ鍛錬の

人ハ鍛錬ト云ハ鍛錬の

一 鍊磨

鍊磨ハ鍊磨ト云ハ鍊磨の

人ハ鍊磨ト云ハ鍊磨の

人ハ鍊磨ト云ハ鍊磨の

人ハ鍊磨ト云ハ鍊磨の

人ハ鍊磨ト云ハ鍊磨の

人ハ鍊磨ト云ハ鍊磨の

人ハ鍊磨ト云ハ鍊磨の

人ハ鍊磨ト云ハ鍊磨の

一 束練 ミレニ さへばすは屋物一 タシレニ 雑練と

はらゝのそりし

一 宏才 クワウガヤイ 宏いひか〜とむ博 ガガ 大智 タイチ の人

宏才のんま〜又鳩才 コウガイ ともま鳩大也 コウ と往り

一 天然 テンゼン 天ふ〜とらりとよむし天のいりど〜

四時行 シイシ きき万物変化 ジツブツ 可是天然 テンゼン の理あり

一 業 ゲク と書 性業 セイギョウ 妙文 ミョウモン 選反宇 センハンウ 業 ゲク 李 リ

善註 ゼンチュ 高峻 カウクニ 兒 ニ とあれ、業 ゲク と書、手 テ へ〜詩經 シキヤウ

〜と書、手 テ へ〜詩經 シキヤウ

其大有 シラホト 願 ガン とあれ、願 ガン 山 サン 書 カキ へきまやま〜

〜と云ふ〜願 ガン といふ願 ガン 人 ニン 又 キヤウ 作 サシ

〜と云ふ〜願 ガン といふ願 ガン 人 ニン 又 キヤウ 作 サシ

〜と云ふ〜願 ガン といふ願 ガン 人 ニン 又 キヤウ 作 サシ

〜と云ふ〜願 ガン といふ願 ガン 人 ニン 又 キヤウ 作 サシ

〜と云ふ〜願 ガン といふ願 ガン 人 ニン 又 キヤウ 作 サシ

一 利口 リコウ 孟子 モウジ 尽心 ジンシン 下篇 ヘン 云 クニ 孔子 コウシ 曰 イハレ 惡 アク 似 ニ 而非 ヒナシ 者 モノ 惡 アク 秀

惡 アク 其 ノ 亂 ラン 也 ナリ 惡 アク 佞 ネイ 也 ナリ 其 ノ 亂 ラン 我 ガ 也 ナリ 惡 アク 利 リ 口 コウ 惡 アク 其 ノ 亂 ラン 信

也 ナリ 朱子 シユシ 註 チュ 利 リ 口 コウ 多 タ 言 ゲン 而 シテ 不 ハ 實 ジツ 者 モノ 也 ナリ

朱子註

知^チ知^チく^ク塵^チく^ク笑^シく^ク追^{ツイ}従^{テイ}け^ケり^リめ^メ

一^一地^{アタリ}心^{ココロ} 日本^{ニッポン}紀^キの^ノ力^{チカラ}く^クら^ラり^リま^マる^ルこ^コ万^{マン}葉^{エフ}よ^ヨは^ハ異^イ

意^イ少^シ半^{ハン}く^クい^イこ^コい^イよ^ヨゆ^ユり

一^一爽^{サハヤカ} い^イい^イよ^ヨさ^サん^ン 遊^{ユウ}仙^{セン}窟^{クツ}ま^マけ^ケ肝^{カン}膽^{タン}を^ヲ

く^クま^マく^クさ^サい^イや^ヤく^クと^ト清^{セイ}き^キり

一^一色^{シヨク}弗^{フチ} の^ノ下^ゲ階^{ガイ}ら^ラい^イい^イの^ノあ^アは^ハ惜^{シヨク}憂^ウお^オも^モ

け^ケら^ラさ^サる^ルを^ヲ説^{セツ}を^ヲ聞^{キカ}ど^ドも^モ世^セ俗^{ゾク}の^ノ類^{ルイ}を^ヲ見^ミん^ン

色^{シヨク}弗^{フチ}と^トあ^アり^リけ^ケる^ルの^ノ類^{ルイ}を^ヲ見^ミん^ン

志^シを^ヲし^シて^テ志^シを^ヲが^ガら^ラり^リけ^ケる^ルや^ヤら^ラむ^ム知^チる^ル色^{シヨク}弗^{フチ}

と^トま^マへ^ヘき^キめ^メや^ヤと^トり^リ

一^一世^ヨよ^ヨり^リあ^アら^ラう^ウを^ヲる^ル世^セ俗^{ゾク}字^ジを^ヲん^ンる^ルい^イ聞^キん^ンる^ル

命^{メイ}く^クは^ハい^イは^ハぬ^ヌ

志^シ先^{サキ} 素^ス戾^リ

顔^{ゲン}面^{メン} 仰^{オウ}天^{テン}

醉^{ツイ}漬^ジ 素^ス面^{メン}

居^イ坐^サ 入^イ身^{シン}

廻^{ツイ}教^{キョウ} 提^{ツイ}杖^{ジヤウ}

透^{ツウ}許^{キョ}

突^{ツツ}鼻^ビ

礼^{レイ}

距^{キョ}杲^{コウ}

寧^{ネイ}轉^{テン}

四^シ度^ド路^ロ

頭^{ツウ}顛^{テン}倒^{ドウ}

口^ク不^フ劣^{レツ}

虚^コ戲^ケ成^{ニナル}

胃^イ衝^{シュウ}

跋^{ハツ}

吃^{キツ}

息^{ソク}

貫^{モロ}

躑^{シツ}

通言抄中之系

掉頭	飽滿	沼田	這躡	愚弱	人臆	手	恰合	散	便	之間	皆式	連刺	狭入	夫場	浮腫	挽取
熱頭	案酌	深剛	去古	野平等	雁着	手傳	續	雜	徹	餘見	長	得	間	吐	口説	撰勝
桃尻	味	手	文作	勤下	房	筆	羨	愚	虚	却	作向	皆目	魁	皮東	流石	捻合
心	目	不	退	何	怒	母	思	知	瓦	瓦	愚	巨	浮	之	破	破
壳	吟	哈	魁	綺	敏	嚶	億	嘖	偏	呻	嚙	搭	縮	鑄	怵	呵

自陸落

節腕

偏迫

多集蒐

流心念

蹲踞

云合

嘆

電相

宿腐

証方

方便

天晴

世智辨

一能

我他彼此

不凡事

職掌

仕済

卒骨

足下

氣象

突倒

目下

小水

是

新

術

求食

去来

車軸

伽陀

復又

小大

漸

成害

紋骨

氏權

時石

血多口

交睫

腕板

銀

肝心

馬子

手理

回嶋

破家

震勤雷電

生得

小大

陰氣

差理

邪氣

帽

瓜交

高年

健氣

義強

閑

波

端手

手筒

弥上

習氣

怪我

二言辭

平物

七二

突石作 トヘツエ 無斗柄 イギブグヂ 意地不慈 イギブグヂ 情強 イギブグヂ
 疎籠 スツコム 可惜物 アツラモノ 奪取勝 イトリカギ 甚公附 タブツツ
 胴膨 トウフク 吐破喝破 トツハカッハ 癖 クセ 潰膽 キモラツクス 出我 カラスクス
 突 ツク 都活 ツミビ 上句終 ウヘクハシ

通言便家抄終巻之末序
 通言便家抄巻之足 庶物之異名詞

永井如瓶子輯
 門人富山白玉子書

乾坤門

一天 テン 大圓 ダイエン 圓慶 エンシ 九霄 キウキウ 蒼茫 サウバウ 慶分 ケイブン

○大圓ハ大ニシテ圓ニシトモハシ者慶ハまゝなりて
 杯之ニシレハ天ノ形ニシテ

○九霄ハ九ニシテ向ノ數トシテ數ノ終極ニシテ人ニシレハ
 九ニシテ十ニシテ向ノ數トシテ十ニシテ向ノ數トシテ九ニシテ終

数々すもし骨は松ぼそりしりたりたけし

○蒼花 蒼花のあはれ花はげしとむむち

花うそ 蒼くおらるといふ

○金 金を金とみそるなり

一日 湯鳥 金鳥 赤鳥 隙駒 白駒

湯精 大吻 大明 金盆

○陽鳥 日ハ物乃精し鳥はか守と候と字彙云

日曰陽鳥中有三足鳥と云す或は日ハ火精

少く物也故に外轉して用く是物也

内れききとの鳥のよきなるなり

○金鳥 赤鳥も金と湯も銀と陰も下れ

は准すへー赤ハ火精なり

○隙駒 隙ハ隙ハ隙ハ駒ハ駒ハ月日ハあり

一途馬れ物のすまぬと云ふこと

事し和語もひゆり約と云ふ張清剛小

隙駒 羅三千暗光と他を

○白駒 白駒ハ同一漢晉魏豹傳人生白駒也

漢書

註白駒日景也といふ

○湯精大由有明抄及守令金魚見えり

一月

玉兔

玉弓

玉鈞

桂輪

嫦娥

銀盆

陰精

玉鏡

死鏡

破鏡

○玉兔と月兔は同じく稱義の類し月中の兔と

去事ハ瑯琊代醉一云月者陰宗之精也二定兔在

月中云法苑珠林依兩國傳云過去有兔行菩薩

行帝親試曰索自欲食捨身於火中天帝怒之取

之身之類は月の類なりて兔といふは月なり

○玉弓ハ二月月と云ふも月と云ふも同じ

なり和漢書より強のけりといふ

○玉鈞ハ玉鈞といふも月といふも同じ

玉鈞といふも

○桂輪と桂ハ同じ月之類也事文類聚後

集二十八云桂樹一名木犀葉似枇杷而小也花淡白

清香紅者謂之丹桂黃花者能著字枝葉冬夏常

青之月中之桂樹といふも圓機活法二天文門

樹下云 國陽雜俎云 月桂高百丈 下有^シ一人常斫之 人^ニ姓 吳名剛 西河人 學仙有過 謫令伐樹 之^レ 斫之^レ 和

平^ニ月^ノの^リろ^クと^シけ^ルる^也

○嫦娥^ガの^レ名^ニ事^ハ支^ノ那^ノ系^ノお^シ系^ニ云^フ羿^ガ射^ル不死^ノ之^レ藥^ヲ於^テ西^ノ王^母嫦娥^ガ竊^リ之^レ遂^ニ走^リ於^テ月^ノ宮^ニ之^レ嫦娥^ト稱^ス之^レ妻^ト也^ト先^ニ云^フ月^ノと^シ嫦娥^トと^シて

○銀^ノ盃^ハ日^ノと^シ金^ノ盃^ハ月^ノと^シて^シ銀^ノ陰^ノ也^ト

○玉^ノ鏡^ハ月^ノと^シ鏡^ハ月^ノと^シて^シ玉^ノ母^ガ孫^ト成^リ鏡^ト連^リ収^メと^シる^也

○花^ノ鏡^ハ同^ク李白^ガ詩^ニ云^フ月^ノ却^シ人^ノ相^ノ他^ノ使^メ花^ノ鏡^ノ後^ノと^シて

○合^ノ璧^ハ月^ノと^シ合^ノ璧^ハ月^ノと^シて^シ月^ノと^シて^シ稱^ス義^トと^シて

○烏^ノ丸^ハ日^ノ中^ノの^レ烏^ノ丸^トと^シて^シ稱^ス義^トと^シて

○連^ノ珠^ハ珠^トと^シつ^テぬ^ルと^シて^シみ^テら^ル類^ト合^ノ精^ハ金^ノ乳^トと^シて

○氣^ハ星^ノハ^レ河^ノの^レ有^ルれ^ルと^シる^也

一 天河 銀河 銀河 的河 白河

○銀漢とて淨い水の川にしろく白く銀の

故に淨くして明何白何白

一 雲 無心 蒼梧 兩具

○無心雲は心なき雲の如く出するの如く陶淵明の

在来淨く雲無心出ゆまゝ東坡詩出本無心

際亦好白く還似雲人と能くけしむの如く

おのの美名とす

○蒼梧は都乃名し舞七明御あり新杜詩曰

斗虞舞蒼梧云正愁まゝ字白詩白雲愁も満

奈梧とてこれの待より雲と蒼梧と

○雨皇とて雲より地氣故に起る時必

婦の如く故に

一 露 泣液 玉液 銀珠

○泣液は涙とて露は泣の液をれ銀珠は

露の如く故に玉液を露とて

一 萩 萩本 天花 天英 青女

○萩本とて萩をさるるよむ萩本は萩

あはくも植ふるゆかり

○天花天英ハ家を花とみたる也英はあまの

○青女は淮南子曰青女至秋三月出降以霜雪

之を女別青天の玉女霜雪をつらむる神

一雪 銀花 銀屑 撒塩 柳紫 花記

無影月 不香花 羞咽

○銀花 雪は白くして花のちるまれば銀花

○銀屑 雪のちるまれば銀屑

○撒塩 柳紫ハ事文類聚前集射あがらぬ

安雪自集見女清論文義俄而雪驟公飲花曰白

雪紛々何所似見子朗兒曰撒塩中差可擬兄

女曰未若柳紫母夙起公大笑為樂之

雪の美名をもちまゝに雪のぬけをり

塩をゆくまゝに柳紫の風は轉むるまゝに

○花記は陸佃云雪と云く成年まゝに和法も

○無影月 不香花 羞咽

○無影月 不香花 羞咽

柴柳シバハシ不サレ花ハと云フ詩シたりキせシうルのハさハく

くシ月ツキはハぬレもカ新カきキのハ無ムのハもカ也

不フ花ハはハがハりキのハ花ハをカよシ誠マコトのハ花ハはハ自ミ

何ナニりキてハもカ一ヒト言コトはハ花ハはハぬレ自ミのハもカ不

香カれハ花ハとハ云フ

○着ツキ羽ハのハ言コトしテ着ツキ羽ハとハ云フまハばハゆレ也ナリ

宋ソウ壘コ山サ雪ガ詩キとハ云フ羽ハとハ云フ待マテ云フ雪ユキ眼メ着ツキ羽ハ

轉マ死シとハ他タとハ云フ子コのハ言コトとハ云フとハ云フとハ云フ

霧キリ

一ヒト霧キリ 乱ラン氣キ 鴻コウ濛モウ未ミ判パン

○乱ラン氣キとハ云フ乱ラン氣キとハ云フ首ウタテ長ナガとハ云フ

○鴻コウ濛モウ未ミ判パンとハ云フ鴻コウ濛モウ未ミ判パンとハ云フ

紛マシ々シ一ヒト氣キ長ナガ空カラ絶ツツ與ヨ鴻コウ濛モウ未ミ判パン同ドウとハ云フ

事コト小コト天テン地チ未ミ判パンとハ云フ鴻コウ濛モウ未ミ判パンとハ云フ

きキ波ハ万マンとハ云フ波ハ万マンとハ云フ常ジョウとハ云フ

いイつツれレもモとハ云フいイつツれレもモとハ云フ天テン地チ未ミ判パンのハ時トキとハ云フ

一ヒト度タク 水スイ氣キ

○水スイ氣キとハ云フ河カ圖ト云フ崑コン崙ロン山サン有アリ氷ヒョウ赤セキ水スイ也ナリ

蔓為^{ムシテ}庭^{ナツテ}而未^{カスミト} 水^{スミ}氣^{カスミト}の^アけ^ト

一山^マ 畫屏^{グハ}

○畫屏^{ヒツク}とけ^{ヒツク}あ^{ヒツク}け^{ヒツク}る^{ヒツク}屏^{ヒツク}風^{ヒツク}と^{ヒツク}さ^{ヒツク}る^{ヒツク}こ^{ヒツク}ら^{ヒツク}い^{ヒツク}そ^{ヒツク}ら^{ヒツク}高^{ヒツク}
山^ザよ^コ古^{セウ}松^{ラウ}老^ウ松^{サニ}枝^{ライ}生^{ライ}ま^{ライ}り^{ライ}青^{コイ}宮^{タイ}あ^{タイ}は^{タイ}ら^{タイ}ら^{タイ}傳^{タイ}は^{タイ}ら^{タイ}
あ^{ヒツク}ら^{ヒツク}る^{ヒツク}屏^{ヒツク}風^{ヒツク}の^{ヒツク}こ^{ヒツク}ら^{ヒツク}い^{ヒツク}そ^{ヒツク}ら^{ヒツク}高^{ヒツク}
ま^{ヒツク}ら^{ヒツク}い^{ヒツク}そ^{ヒツク}ら^{ヒツク}高^{ヒツク}

時侯^{トキ}門^{カド} 十二^{ジュニ}ヶ月^{ゲツ}之^ノ吳^ウ若^{ニョ}

一正月

年^{トシ}の^ノ初^{ハジメ}月^{ツキ}と^ト正月^{トシ}と^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}春^{ハル}の^ノ始^{ハジメ}末^{マタ}の^ノ月^{ツキ}と^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}降^フ誕^タの^ノ月^{ツキ}と^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}始^{ハジメ}末^{マタ}の^ノ月^{ツキ}と^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}始^{ハジメ}末^{マタ}の^ノ月^{ツキ}と^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}

立春^{リシュン} 雨水^{ウスイ} 驚^{オドロク}蟄^{シム} 芒^{マウ}種^{シュ}
芒^{マウ}種^{シュ} 三^{サン}陽^{ヤウ} 五^ゴ芒^{マウ} 暄^{ケン}月^{ツキ} 三^{サン}元^{ゲン}

○立春^{リシュン}ハ正月^{トシ}の^ノ初^{ハジメ}日^ヒと^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}曆^{レキ}數^{スウ}と^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}年^{トシ}内^{ナイ}の^ノ初^{ハジメ}日^ヒと^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}

○雨水^{ウスイ}ハ正月^{トシ}の^ノ中^{ナカ}に^ニ下^シ可^カ准^{ジュン}之^シ

○驚蟄^{オドロクシム}ハ立春^{リシュン}の^ノ後^{ノチ}に^ニ始^{ハジメ}る^{ヒツク}蟄^{シム}の^ノ終^{ハジメ}る^{ヒツク}日^ヒと^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}

○芒種^{マウシュ}ハ夏至^{ハツシ}の^ノ後^{ノチ}に^ニ始^{ハジメ}る^{ヒツク}種^{シュ}の^ノ終^{ハジメ}る^{ヒツク}日^ヒと^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}

○三陽^{サンヤウ}ハ立春^{リシュン}の^ノ後^{ノチ}に^ニ始^{ハジメ}る^{ヒツク}三^{サン}陽^{ヤウ}の^ノ終^{ハジメ}る^{ヒツク}日^ヒと^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}

○五芒^{ゴマウ}ハ立春^{リシュン}の^ノ後^{ノチ}に^ニ始^{ハジメ}る^{ヒツク}五^ゴ芒^{マウ}の^ノ終^{ハジメ}る^{ヒツク}日^ヒと^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}

○暄月^{ケンツキ}ハ立春^{リシュン}の^ノ後^{ノチ}に^ニ始^{ハジメ}る^{ヒツク}暄^{ケン}月^{ツキ}の^ノ終^{ハジメ}る^{ヒツク}日^ヒと^トい^{ヒツク}ふ^{ヒツク}る^{ヒツク}

○三陽と云ふ二月は一切まて正月なるは物まを

○五表それ一月下のうらまると人偏のうらま

正月の月乃らうらまるといふまを

○睦月睦むつまといふは新まは親

おもしろく嬉み遊あするあむつまむつま

○三えとは正月年の元月の元日のえらめ

このけしめ

○元日 鷄日 鷄旦 元旦 歳旦

右あり初日を鷄日といひ二日を初日といひ七日は元

冒を羊日昔を牛日六日を馬日七日を人日といふ

あ新楚歳内記より

一二月

鷄日

鷄旦

元旦

歳旦

夾鐘

衣文

如月

二月四陽生スルコト

○仲まはけ表三月乃甲分されは表内表

○夾鐘律を夾字甲し鐘種しと往きうらま

け月乃地字甲し種おちおれし字甲とけ

ああはははははははははははははははは

げきあしおしおるは甲をきくはにひんれん

○夜交をきくは月夜を待つまきあは夜ま

きししと云の義しきくは月とまき

一三月

清明	穀雨	晩春	暮春	初夏
三月節	三月節	三月節	三月節	三月節
姑洗	沐浴	季春	暮春	初夏
三月節	三月節	三月節	三月節	三月節

○姑洗八律若し姑故や洗解いけ月万拍故を玄て

一故よきるゆふ

○沐浴は一切の事あはけ月をひりて擗せらる

あふ沐浴とらえしゆ生ハやわらうと云の義也

○と己 曲水節 桃花節

○三月之節と己曲水くいさう若周れ成望の時

周公旦宅を洛陽よたく天下の士を来く始て

曲水の常あを行るをも常あ杯の俾し酒をを

氷よふうあくとも香のふくれ杯さるり中し詩賦を

けいねくけ酒を飲飲く真下を賦を論をん

杯をわらふさるるれり曲水乃常あよさる

ねわらうあまはとのこの日を月ひりもて親

より後三日と申して己の目と申ひざりて本物

おし己乃目の枝と云事よ色の事

○桃花節ハ初学記桃始二月花と云りて桃

仙家の玉樹と云りて祝と云事賞穀すも

一四月 立夏 小満 仲夏 卯月 暮秋

首夏 初夏 新夏 純陽 六陽

○仲呂律名し呂脚し子ハ六月陽氣盛長

陰ま成功を暇なまらふ

○卯月ハ卯卯の花と云らんまらるる

○暮秋ハ十月暮をなまらるる

○純陽ハ純陽の月と云らん

くく生るゆは純陽の時と云らん

一五月 芒種 夏至 蕤賓 梅月 皋月

仲夏 盛夏 梅月

○蕤賓律名し蕤説又草木花葉見と云らん

んまけ月一陰生陰氣切小なるゆは下又蕤

すらし寅ハ寅の心し一陰の氣来りて

陽なり

○梅月一名梅送月ハハサツ月ツキのノ名ヲ梅ノ送ル月ト云フ也ト云フ梅ノ子ト云フはハ送ル月ト也ト

○臯月カサツキさつキきト云フはハ月ノ名ト云フ也ト云フはハ月ノ名ト云フ也ト

二字ニ字ニ中ニ略シ五月ノ田ノ種ヲ小ノさラくル終ル月ト云フ也ト

○梅雨ウメウツとシ陸ノ田ノ高ノ青ノ間ノ梅ノ欲ノ落ル水ノ潤ル土ト云フ也ト

溽ウツク蒸ウツク成ル雨ト謂フ之ヲ梅ノ雨ト云フ也ト梅ノさバと云フノ意ト也ト

すハ必ズ水ト土ト流リ一ニ整サす一雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト

是ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト

俗ノよリとシ梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト

黧ク雨ト芒ノ種ト後ト逢ル至ル入ル梅ノ小ノ暑ト及リ逢ル至ル芒ノ種ト云フ也ト

芒ノ種ト及リ逢ル至ル入ル梅ノ小ノ暑ト及リ逢ル至ル芒ノ種ト云フ也ト

中ノ雨トとシつウゆトとシ云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト

立夏ノ後ト逢ル至ル入ル梅ノ芒ノ種ト及リ逢ル至ル入ル梅ノ芒ノ種ト云フ也ト

吊ル年トとシつウゆトとシ云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト

於テ丹ノ生ル山ノ田ノ庄ノ原ノ野ノ村ト邊ト梅ノ花ノ利ト云フ也ト梅ノ花ノ利ト云フ也ト

よりト百ト三ト年トとシつウゆトとシ云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト

杉ノ屋ノやリとシつウゆトとシ云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト梅ノ雨ト云フ也ト

○端午 端五 蒲節

○端午フツドキのノりト風ト土ト記ト曰ク仲ノ夏ト端ノ午ト注ス云フ端ノ始ト也ト端ノ始ト也ト

五月也説曰楚人屈平昔昔當初年之日落泪羅
 水而死故昔昔云端午楚人以每迎日以樽酒納
 飯以五色絲卷入水祭屈平之端午ハ何れ年と
 よしし。もまの楚に在るも人六月有年の日
 小當りて因難いよ流して死を故に於人ひ泉
 わりて樽酒を飯をへまきの糸をまき水
 に入屈平を祭りし今粽といふもこしを
 日午ありしれも今も端午といひく年ハ何れと
 元日なりしとす。端午もこの換字しけり。の
 又日といふもこし

○蒲節といはけ昔もけ菖蒲を敷くは權り
 物よりてあまゆめなり。菖蒲を用る事ハ屈平
 人乃後よりして流罪をこれ遂よ因難いよ
 投て死きり。も然に所くく毒蛇とぬく國を
 己んとす。時風をこれ割はせらやうとけり
 の小皮蛇ハ頭赤く尾青く菖蒲を似る故よ
 菖蒲を敷くは愛法。ゆまも人又家軒よぬ
 き根をきぎみく酒ハ入割はせらをさしぬ

皮蛇カサのキタ恐オソきそ道ミチをりカサゆキタき守モリとシ首ウシ
藩ハシをアやめとトむシ夕ユフ皮カ毒ドク蛇ヘビとアやめとトりス
夕ユフにナ名ナ符フとトとト強シ者セ符フ記キのカんンとトり

一六月 小暑 大暑 林鐘 季夏
六月節 六月中

○林鐘リンシヨウ六律リク名ナし林リンのモ成セイしセ鐘シヨウ六種リクしシ子シのモ六月リク
物モノ落ラクとトもトもトきキんンとトしシ林リン射シャのカあアつツまマるル今イマ鐘シヨウとト
鐘シヨウとトずスんンありアリ額ガクらラとト八ハチ法ハフきキんン也ヤ

一七月 立秋 處暑 蟬秋 送秋 初秋
七月節 七月中

○夷ヒ躬コウ六律リク名ナし夷ヒのモ傷キひヒ躬コウのモ傷キひヒとトるル子シのモ六月リク物モノ初ハツ
くク傷キひヒ刑ケイ法ハフをカんンとトりス

○文月フミツキとトしシ七月シツゲツ七日ニチ夕ユフ法ハフ人ニン詩シをカんンとトりス或アルハ文書モンショとト
さサしシてテ二ニ身ミ不フ供キョウとトるル子シのモ六月リクとトりス

○親月フツツキとトしシ六月リク諸人シヨニン親コトのモ墳墓フンボへト訪ヒラづツるルなナまマるル子シのモ六月リク
○七夕セツセキ 星會セイカイ 乞巧キコウ夕ユフ

○星會セイカイとトしシ七月シツゲツ七夕セツセキ夕ユフとトりスのモ星ホシあアつツまマるル也ヤ

○無射ハ律名也射ハ終ノ子ハ方物也
終ノ子ハ後ヲ始メ起ル者也終ノ子ハ終ノ子

一 故ヨリハ

○菊月ハ正月氣スルハ用ク也

○長月トハ辰月トハ子の終也

○重陽 登高節 菊節 茱萸會

○九月九日と守節とあり九月九日と

九月九日と守節とあり九月九日と

○九月九日と守節とあり九月九日と

月九月九日と守節とあり九月九日と

仍九月九日と守節とあり九月九日と

一十月 立冬 小雪 寒露 霜降

初冬 小春 初雪 初春

○初冬ハ律名也初冬ハ初ノ冬也

○初春ハ律名也初春ハ初ノ春也

○小春ハ律名也小春ハ初ノ冬也

十月、^{カミヤ}純陰の時なる也。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

一陽來流の時なる也。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

○^{カミヤ}神育の時なり。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

御、^{カミヤ}一陽來流の時なる也。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

常、^{カミヤ}小軍を教して、^{カミヤ}天照を神とす。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

治、^{カミヤ}小のち神素を盛馬ををま。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

一、^{カミヤ}年々の十月、^{カミヤ}神育の時なり。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

與、^{カミヤ}一陽來流の時なる也。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

一、^{カミヤ}十月、^{カミヤ}神育の時なり。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

十一月

大雪

冬

黄

河

新

後

仲

冬

新

河

○^{カミヤ}黄、^{カミヤ}河、^{カミヤ}律、^{カミヤ}冬、^{カミヤ}大、^{カミヤ}雪、^{カミヤ}の、^{カミヤ}時、^{カミヤ}なり。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

○^{カミヤ}陽、^{カミヤ}後、^{カミヤ}の、^{カミヤ}時、^{カミヤ}なり。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

○^{カミヤ}一、^{カミヤ}月、^{カミヤ}は、^{カミヤ}一、^{カミヤ}陽、^{カミヤ}來、^{カミヤ}流、^{カミヤ}の、^{カミヤ}時、^{カミヤ}なり。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

○^{カミヤ}一、^{カミヤ}月、^{カミヤ}は、^{カミヤ}一、^{カミヤ}陽、^{カミヤ}來、^{カミヤ}流、^{カミヤ}の、^{カミヤ}時、^{カミヤ}なり。是、^{カミヤ}一陽來流の時なり。

十二月

小寒

大寒

大

臘

月

十一月節

十一月中

梅月 香冬 映冬 香冬 殊冬

○大呂の律名し呂八物し正月の氣まゝま生しと陰
氣はこれと物と

○臘月 洗又臘 儀しと 儀しと 歎とと 事しと 澤朝

小あふの君はほき中ふと正月乃あふを臘と云し 儀は

戌日 魏は辰日 晋は五日 歎とと 事しと 澤朝

沖意とあふぬふと正月を臘月と云し

○師走と正月 諸寺法山乃師徒 檀まのりやく

年中乃形 儀の巻 敷とと げとと ありぬは 儀

れりさおれいそぐりくをいぬらんとし 師走月た云

○梅月と十二月の梅されし梅は梅の儀し

○歳暮 除夜 除臘 年終

○除夜と大年のれ書し 細年とのそとと云し

氣形門

一鶴 君子 仙客 丹頂 玄鶴 玄鳥

○君子は鶴の鳥の中よそは性ゆるやありてまじ
く一あはは鳥は似れりし君子はん鶴は小人

心多^キあつるの^ハ白^{ハク}楽^{ラク}天^{テン}詩^シ鶴^{カク}苑^ワ同^ト處^ト見^ミ君^{キミ}子^コ

○仙^{セン}苑^{エン}と^ハ鶴^{ツル}の^ハ仙^{セン}人^{ニン}も^ハあ^ハれ^ハる^ハと^ハい^ハは^レる^ハ鳥^{トリ}も^ハあ^ハれ^ハる^ハ

○丹^{タン}頂^{テイ}と^ハい^ハは^レ鳥^{トリ}長^{チカ}頸^{ケイ}高^{カウ}脚^{キヤク}丹^{タン}頂^{テイ}白^{ハク}身^{シン}と^ハ頂^{テイ}赤^{セキ}

馴^ナれ^ハぬ^ハふ^ハと^ハい^ハふ^ハ又^{マタ}頸^{ケイ}短^{タン}と^ハい^ハふ^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハ

玄^{ヘン}鳥^{トウ}と^ハい^ハふ^ハ

一^{ヒト}鴈^{ガン} 陽^{ヤウ}鳥^{トウ} 塞^{サイ}賓^{ヒン}

○陽^{ヤウ}鳥^{トウ}と^ハい^ハは^レ鳥^{トリ}熱^{ネツ}と^ハい^ハは^レる^ハ時^{トキ}小^コ鳥^{トウ}死^シす^ハる^ハ時^{トキ}あ^ハり

し^ハて^ハ陰^{イン}陽^{ヤウ}の^ハ性^{セイ}も^ハあ^ハら^ハぬ^ハ死^シす^ハる^ハ時^{トキ}あ^ハり

○塞^{サイ}賓^{ヒン}と^ハい^ハは^レ塞^{サイ}胡^コ烟^{エン}と^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハ

恐^{オソ}れ^ハぬ^ハ林^{リン}南^{ナン}と^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハ

一^{ヒト}鷺^ロ 黃^{ワウ}鳥^{トウ} 綿^{メン}蜜^{ミツ} 黃^{ワウ}鶴^{カク} 金^{キン}衣^イ公^{コウ}子^シ

○黃^{ワウ}鳥^{トウ}綿^{メン}蜜^{ミツ}ハ^ハ情^{セイ}小^コ雅^ヤと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハ

と^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハ

と^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハ

と^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハ

○金^{キン}衣^イ公^{コウ}子^シと^ハい^ハは^レ天^{テン}竅^{キヤウ}と^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハ

中^{チュウ}見^{ケン}黃^{ワウ}鳥^{トウ}呼^コぶ^ブと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハ

と^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハと^ハい^ハは^レる^ハ

一 鶺鴒

司晨

先曉

啓圖

○啓圖ハ圖を以て之は嶺谷圖より鶺鴒の形を以て

開く圖門を以て之は司晨先曉抄よりなり

一 燕

社君

天女

○社君ハ社に社自として其社あり其社あり

近き成日社社分より成日社社の社を以て

是を社自とて燕の社を以て社社の社を以て

なり故に社君とて皇南丹詩燕知社自神宗去

○天女とて燕の社自とて燕の社自北嶺社

投洞白下一化の青衣童子一化の青衣女子

この形よりなる

一 鶺鴒

社君

社君

男魂

男魂

男鳥

帝魂

僧敏

不始

郭公

○社君ハ成都記曰社君亦曰社主社主社主帝位禪

因明死魂化為鳥名社鶺鴒ハ社君とて男鳥

位と因明の社君とて西山の鳥死して魂鳥

となりこれを社君とて社君とて社君とて社君

と禪を西山の鳥の時三月を以て

松原の鳴あは馬人なれよまをて悲ひよふかたれ
まゝしてはさるも杜若もいそし鶴かゝるはし

○蜀魂とて馬乃望帝乃魂されし蜀魄馬鳥
帝魂もいそしは馬不ぬぬくもはまて蜀へゆき

夷とてゆゆの價取も不ぬぬえき
○郭公とて或は郭公の魂とて云ふ

一 蟬 吸露 送秋 蛻骨

○吸露とて淮南子曰蟬無而鳴飲不食と徐仙玉
待野路充食一肢清と能れと蛻ハ露と食とあり

一生とすこせらるもの

○送秋とて李吉祐詩よりむらうも待とて
声とて夏秋とて蛻骨ハ蝶のぬけぐものも本草

蟬とて其魁曰蛻と云ふ

一 螢 丹鳥 夜光 宵燭

○丹鳥とて螢ハ赤とて志も悲れ丹鳥とて又松を云ふ

○宵燭とての燭とてむされ車道とて人ハ負して
文とて油なりなれハ夏をと給てこも火を夜を

法とありとて大月とて海の博士とありとて事海と

よるてしり

一馬 追風 絶地 翻羽 欵段 果下

○追風名馬のまじりし事凡とてりし

○絶地は周の穆王乃ハ駿と云ハ之の名も乃中れ

名しげ馬良よむとぬまされハ絶地と云と推し此が

○翻羽ハ駿の中れまじりし事凡馬と云ハ

ゆハ翻羽と云

○欵段ハわき馬と云後漢書馬援傳乘下澤車

御鞍馬之注欵段後言形は後也と云

趙子昂詩楊騎欵段遠游

○果下ハ小馬のまじりし事凡馬と云

下もまじりし事凡馬と云宋荆公句云呼童羈我果下駒

一牛 桃林 黑牡丹

○桃林ハ所の名ハ周武王殷紂王と云りて世を結め

あひて及馬と華山乃陽ハ放ち牛と桃林の墟ハ

は家ぎし事凡馬と云世作ハ其具ハ車を用はるる事

ハ委高事ハ乃ハ事凡馬と云本文を以て其事とす

○黑牡丹と云事ハ唐の劉川岳ハ其母ハ

みそ後あを運く犯と愛一およ牛をうささ
けりていそけり洲の黒牡丹とて仍て牛乳別るん

一大 黄耳 韓獪

○黄耳とて晋の侯核とて人の愛とて大の侯核
久ぬ洛陽よりありて家回と絶より或時黄耳の迎て
浴していそくれ絶して家回ときんめり書と個
てお智とて子へきやとて黄耳を急と勤して声
成る守侯核別書とてあ竹の筒よりくも首よ
うもより黄耳道をとるひて浴よとて家より別る
必節をひく洛陽よりありて絶よ侯核のあつとす
○韓獪ハ狩ハいぬし韓氏大を乞とて改よ韓字を好也

草木門

一梅 冰魂 雪魄 姑射人 妃見

○冰魂雪魄ハ梅もの清感よりと氷雪の魂魄と
みそていそと梅花ハ雪中より開くをいそと
待醫は冰魂雪魄回とゆる情やあとそと梅花
○姑射人ハとて事梅子道遙篇云其貌姑射之有神
人居之肌膚若冰雪とてと姑射ハ山の名いそと

通言

梅此の歌に於て水膚言魄をもと神人比して之

○花見と梅花の諸義も記して宮内省の

花乃見と梅花の諸義も記して宮内省の

一 桃 仙菓 仙木 不言

○仙菓と桃の仙の身ぶるは海の武後と云ふ

桃記の序に於て仙室よりし事桃原記の序

と上玉母の桃は三千年の事なりと云ふ

○不言とは史記桃妻不言下自成蹊と云ふなり

又紀納言桃花詩序にも曉風緩吹不言之聲也

一 松 公本 十八公 蒼梅 蒼松

○公本十八公の事松の字とりもつるものなり

丁園といふ人の十八歳の時松の影をよせしと云ふ

ことばの公とりし事あまの御水もいふなり

○蒼梅ハまき梅の松の影をよせし陳元信詩蒼梅

如載書淨潔と

○蒼松は松の影をよせし事あまの御水もいふなり

一 竹 湘君 湘碧 竹君 竹袖

○湘君とは湘の瀟湘楚國あり竹の名も湘君と

ちは堯の女娥皇女英の二女とていひて二女舜娥

とていひのひは湘水の邊に居りて

崩潰ありてを聞て悲しみの涙竹より流して

湘水ありてと楚辭の行と深とされ

○は君とは晋は王義之の子王子猷とて人竹を植く

覺すらあゆりて君と稱とありて

備竹節は晋騎兵泰軍王子猷栽栽林は君とて

○白石神は後漢潭竹詩琴神翩翩薄暮愁と

は侍天寒潭油薄日暮倚竹とて

英のよりとて竹を美人とて竹を

神とていふとて

一牡丹 花王 富貴花 蜀錦

○花王とは韻會牡丹為花王梓為木王とて牡丹を

花の中をてむ華華とて花を

周茂叔は花の富貴者也とて

○蜀錦は牡丹花の毛織物とて

蜀の字はらるる事ハ蜀は國ハ鳳が子錦の字は放

は蜀は乃錦とて

白氏六帖云蜀成都有

濯錦之江々

一 菊

隱逸

隱天

林高

節花

菊花

○ 隱逸とは月夜叔党蓮花云菊花は隱逸者也

主菊は万花の之と争ひて用あふるる時らよはさ

は九月末末凋零する所業折り盛るる時

士は志を似るる故に隱逸とも隱天子花神と

○ 節花とは万花と主菊を不競して節花を

よまぬしるるのされど菊花は菊花に似るる

一 蓮

花君子

藕花

碧蓋

○ 花君子とは周茂叔愛蓮説云蓮花之君子者也

まき蓮は花中より出でてまき色は潔に蓮中より

外直して枝わだ蔓すつる海君子の跡を

ころ故に花君子と云藕花はまき守の花とよむ

○ 碧蓋はみどりの蓋とよむ蓮花のよむ

一 硯

銅雀

紫潭

墨池

墨園

○ 銅雀とは事文類聚云魏銅雀臺遺址人塚地

古月以の観貯水数自不乾之銅雀臺を魏曹操の

ゆれ^{ワラナ} 臺^{アルヒト} 或人^{コセキ} の古^キ 詠^{カク} をほりて 古^キ 瓦^カ をゆり

別^ナ 硯^イ をゆりてけり^{ボク} 又^ス 硯^イ をゆりて^ス 数^ス 目^メ まで^カ 乾^カ せ

ア^カ 硯^イ の^カ 美^ミ 名^ナ とす^ス され^レ 又^キ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

瓦^カ 硯^イ と^シ 重^{オモ} 宝^{ホウ} する^ル 硯^イ の^カ 名^ナ とす^ス 又^キ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

風^{カゼ} 名^ナ も^モ 瓦^カ 硯^イ を^シ 用^{ヨウ} ひ^ヒ ら^レ れ^ル 硯^イ の^カ 名^ナ とす^ス

○^シ 某^{ナニ} 澤^シ 深^シ 水^{ミヅ} の^カ 所^{トコロ} を^シ 名^ナ とす^ス 又^キ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

一^{ヒト} 筆^{フデ} 管^{クワン} 城^{シヨウ} 公^{キョウ} 秋^{アキ} 虎^コ 筆^{フデ} 文^{モン} 毛^{モウ} 類^{レイ}

○^シ 某^{ナニ} 城^{シヨウ} 公^{キョウ} と^シ 云^フ 筆^{フデ} の^カ 名^ナ とす^ス 又^キ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

管^{クワン} 城^{シヨウ} 公^{キョウ} の^カ 名^ナ とす^ス 又^キ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

○^シ 秋^{アキ} 虎^コ の^カ 名^ナ とす^ス 又^キ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

秋^{アキ} の^カ 名^ナ とす^ス 又^キ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

○^シ 誰^{ナニ} も^モ 筆^{フデ} の^カ 名^ナ とす^ス 又^キ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

○^シ 文^{モン} 毛^{モウ} の^カ 名^ナ とす^ス 又^キ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

筆^{フデ} の^カ 名^ナ とす^ス 又^キ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

一^{ヒト} 錢^{ゼン} 後^ゴ と^シ 一^{ヒト} 二^ニ と^シ 云^フ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

昔^{ムカシ} の^カ 名^ナ とす^ス 又^キ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

百^{ヒャク} 年^{ネン} と^シ 云^フ 又^キ 今^{イマ} も^モ 別^ナ 硯^イ あり

鵝眼 ガガシ 鵝目 ガモク 青目 アヲモク 青蚊 アヲフ

用脚 ヨウキョウ 孔方兄 クワンケイ

○鵝眼とは鵝といふ字の腫方なりて同八圓之儀
の形圓して中の穴方なりて似たりなるは青目鵝目

青目同一家に青銅の洞ありて青目之儀

○青蚊とは蚊の水虫に比して多子と云ふを
以て世俗に名をとりて儀はねれは青目之儀

○用脚とは儀は天下乃らりてと云ふ事

位の華なりと云ふ高貴工果れは乃らりてと云ふ

用と調と云ふ脚ありては似れぬと云ふ

されは儀は青目と云ふ魯褒錢神論無定走と云

ふと云ふ名をとりて又儀をまゐると云ふ

と云ふ名をとりて又儀をまゐると云ふ

太公為周立九府圓法之書高注圓則後也

○孔方兄とは孔元と云ふ事

ゆへに孔方と云ふ兄は音ありて是の義なり

通言

一扇^{アヲキ} 明^{アヲキ} 雉尾^{チビ} 鶺鴒^{シビ} 柘涼^{シビ} 圓窗^{ダンシヨウ}

○扇と明と扇と雉尾と鶺鴒と柘涼と圓窗と

○扇と明と扇と雉尾と鶺鴒と柘涼と圓窗と

○扇と明と扇と雉尾と鶺鴒と柘涼と圓窗と

○扇と明と扇と雉尾と鶺鴒と柘涼と圓窗と

○扇と明と扇と雉尾と鶺鴒と柘涼と圓窗と

○扇と明と扇と雉尾と鶺鴒と柘涼と圓窗と

○扇と明と扇と雉尾と鶺鴒と柘涼と圓窗と

新製 裁為 谷 飲 扇 圓 窓

一杖^{ツヅ} 鳩杖^{キウツヅ} 枯藤^{コトウ} 杖老^{ツヅラウ}

○杖と鳩杖と枯藤と杖老と

○杖と鳩杖と枯藤と杖老と

○杖と鳩杖と枯藤と杖老と

○杖と鳩杖と枯藤と杖老と

○杖と鳩杖と枯藤と杖老と

○杖と鳩杖と枯藤と杖老と

○杖と鳩杖と枯藤と杖老と

通言

おゆへし杖老の二字ハ清女みより多クシメキマシ陶匱タウケイの由ユ来キ

辯策杖老以流ハニツ五 冬冬想テリウケイストくもニ易林曰鳩杖杖老キウジウ

困学紀聞ニシガクキブンには杖老藤之若也フラスハとあり

一 鈕ケ 干将カンサウ 莫耶バクヤ 干霜カンサウ 莫雪バクセツ 三尺サンサウ

○干将ハ呉を文ゴノタイフ之バクヤ 耶ヤ 干将之妻ツメ也ホウ 室鈕ホウと

はくろくしオイケルなりぬオイケル名オイケル鈕オイケルのオイケル名オイケルはオイケル賈誼カギガテウククシ吊屋原賦テウケンに

莫耶為鉞バクヤ 鉞バクヤ 刀タウ 為タウ 銘メイとく

○干霜カンサウ 雪セツ とは干カン 干将カンサウ 莫バク 耶ヤ 霜サウ 雪セツ 鈕ニウ のニウ

源順ニキキリ 句コウ 雄ユウ 鈕ニウ 在ア 腰ウ 插セ 秋霜キウサウ 三尺サンサウ 長チウ

○三尺サンサウ とは流カ の高カ 祖ソ のコ 高カ 祖ソ 帝テイ とコ 所シヨ

より物モノ 出イ 名ナ 鈕ニウ 也ヤ けケ と人ヒト の鈕ニウ とコ 天下テンカ とコ

事史記シキ 中チュウ 行コウ 朗詠詩ラウエイシ 三尺サンサウ 鈕ニウ 光クワウ 氷ヒョウ 在ア 手テ とく

一 船フネ 一 葉エフ 龍頭リウトウ 鶴首カクシウ 浮鶴フウカク

○一葉エフ とは昔シヨク 蒼帝ソウテイ 臣シ 貨カ 狄テキ とコ 人ヒト 本ホン 義ギ 乃ノ 水スイ とコ

教キョウ 乃ノ 水スイ とコ 始シ 婦フ づク 事コト 法ホウ 也ヤ 夫フ 人ヒト 也ヤ

○龍頭リウトウ とは天子テンシ 將軍サウケン 此コノ 臣シ 也ヤ 必カナラシ 就ス のコト 一ヒト と

他タ 龍リウ 水スイ とコ 始シ 婦フ づク 事コト 法ホウ 也ヤ 夫フ 人ヒト 也ヤ

○益首ゲキウとは淮南子龍舟鶴首リウシュウカクシウとも往鶴木鳥也ニゲキ益

象著シヤク船首フネウシ以ニ禦水患ミツノイハレと云ふは鶴ゲキと云ふは水神の

つづらちりや文モンの行ユクし及ツちり云々のあはれ就ツ

みよは必カナラれと云くとも是水中の龍と云ん

為タ常ツ々ツ合カ々ツ就ツ江鶴舟リウシュウカクシウと云ふは鶴ゲキ同ニ義ニ

飲吸門

一酒サケ 青別セイベツ從事ジツ 平原ヘイゲン督郵トクユウ 竹葉チクヨウ 竹露チクロ

下若カシヤク 三邊サンペン 茆葉ハクサイ

○青別セイベツ從事ジツ 平原ヘイゲン督郵トクユウ と云ふは世説セセツ云ク桓公クワンコウ有リ主シ

薄善ハクゼン別酒ベツシュ好者コウシャ謂フ青別セイベツ從事ジツ 惡者アクシャ謂フ平原ヘイゲン督郵トクユウ

蓋カシ青別セイベツ有リ齊郡サイクン平原ヘイゲン有リ鬲郡リツクン言フ好酒コウシュ下ゲ臍シ而シテ惡酒アクシュ

有リ鬲上リツカミ任ニ也ナリ從事ジツ 義官ギカン而シテ督郵トクユウ 賤職ゼンシツ故ニ取リ以テ論ル

之ノ酒シュ之ノ名ナ之ノ義ニ也ナリ齊郡サイクンと鬲リツ郡クンと

鬲リツ郡クンと云ふは又湘江シヨウカウマカウ姓シヤウ録ロクには昔コト青別セイベツ從事ジツ 善鬲ゼンリツ

と造ツクる故ユは青別セイベツ從事ジツ と云ふは山サン谷コク待マ也ナリ攻セ

許コ愁シュ城シヤウ終シユウ不フ用ユウ青別セイベツ從事ジツ 斬キリ鬲リツ郡クンと云ふは

○竹葉チクヨウと云ふは百詠ヒャクヤウ註シュ目城メシヤウ出デ竹葉チクヨウ酒シュ之ノ名ナ也ナリ

酒シュ之ノ名ナ也ナリ美ミ酒シュと云ふは竹葉チクヨウ酒シュ之ノ名ナ也ナリ

○下若^{カビク}所^{トヨ}乃^ト名^ナ義^ギ酒^{シウ}の^ノ出^デる^ル也^ヤ朗^{ロウ}詠^{エイ}集^{シウ}待^{テイ}酒^{シウ}是^シ
下^{カビク}若^ク村^{ソウ}之^ノ所^{トヨ}傳^{デン}傾^{ケイ}甚^シ美^ミ也^ヤ

○三^チ邊^{ヘン}と^ト云^ク事^{コト}從^ユ多^ク朗^{ロウ}詠^{エイ}集^{シウ}先^{サキ}三^{サン}邊^{ヘン}と^ト云^ク也^ヤ
花^{ハナ}と^ト云^ク事^{コト}從^ユ多^ク朗^{ロウ}詠^{エイ}集^{シウ}先^{サキ}三^{サン}邊^{ヘン}と^ト云^ク也^ヤ
酒^{シウ}と^ト云^ク事^{コト}從^ユ多^ク朗^{ロウ}詠^{エイ}集^{シウ}先^{サキ}三^{サン}邊^{ヘン}と^ト云^ク也^ヤ

の^ノ心^{ココロ}は^ハ強^{カウ}く^クも^モ弱^{ジュウ}く^クも^モ有^アり^リ也^ヤ酒^{シウ}と^ト云^ク事^{コト}從^ユ多^ク朗^{ロウ}詠^{エイ}集^{シウ}先^{サキ}三^{サン}邊^{ヘン}と^ト云^ク也^ヤ
邊^{ヘン}と^ト云^ク事^{コト}從^ユ多^ク朗^{ロウ}詠^{エイ}集^{シウ}先^{サキ}三^{サン}邊^{ヘン}と^ト云^ク也^ヤ
事^{コト}と^ト云^ク事^{コト}從^ユ多^ク朗^{ロウ}詠^{エイ}集^{シウ}先^{サキ}三^{サン}邊^{ヘン}と^ト云^ク也^ヤ

形^{カタ}は^ハ強^{カウ}く^クも^モ弱^{ジュウ}く^クも^モ有^アり^リ也^ヤ酒^{シウ}と^ト云^ク事^{コト}從^ユ多^ク朗^{ロウ}詠^{エイ}集^{シウ}先^{サキ}三^{サン}邊^{ヘン}と^ト云^ク也^ヤ
飲^{ノミ}て^テ後^{ノチ}の^ノ飲^{ノミ}も^モ亦^{モト}有^アり^リ也^ヤ酒^{シウ}と^ト云^ク事^{コト}從^ユ多^ク朗^{ロウ}詠^{エイ}集^{シウ}先^{サキ}三^{サン}邊^{ヘン}と^ト云^ク也^ヤ

酒^{シウ}と^ト云^ク事^{コト}從^ユ多^ク朗^{ロウ}詠^{エイ}集^{シウ}先^{サキ}三^{サン}邊^{ヘン}と^ト云^ク也^ヤ
あ^アら^ラま^マ定^サて^テ三^{サン}邊^{ヘン}の^ノ義^ギ式^{シキ}あり^リ先^{サキ}三^{サン}邊^{ヘン}と^ト云^ク也^ヤ

○蒔^{ハク}紙^シと^ト云^ク事^{コト}從^ユ多^ク朗^{ロウ}詠^{エイ}集^{シウ}先^{サキ}三^{サン}邊^{ヘン}と^ト云^ク也^ヤ
酒^{シウ}と^ト云^ク事^{コト}從^ユ多^ク朗^{ロウ}詠^{エイ}集^{シウ}先^{サキ}三^{サン}邊^{ヘン}と^ト云^ク也^ヤ

Kilungawa-Suo

1927. 7, 28

Sendai de

通言後系抄足

書林

浅田治右衛門



脚と茶

一茶 チア
 密雲龍 ニツウンリウリウ
 龍團 リウダン
 鳳團 ホウダン
 芽茗 ガメイ
 雲脚 ウンキョク

○茶の製法は^{ミヅ}お茶の^ウ葉を^シ揉む^クことなり^シ心^ヲ細^クする^ニ茶^ノと^モる^クことあり^シて^モこの^ノ級^ノも^ハ茶^ノの^ノ製^法なり^シ

改^メり^テ馮^ノ叔^ノ猷^ノ東^ノ坡^ノ海^ノ南^ノ京^ノ茶^ノ園^ノ特^ノ選^ノ分^ノ賜^ノ家^ノ密^ノ雲^ノ龍^ノと^シて^ハ龍^ノ團^ノ鳳^ノ團^ノと^リテ^ハ茶^ノ乃^リ級^ノ之^ノ團^ノは^シる^クことあり^シもの^ナり^シ

○芽茗^ハよ^クき^テ茶^ノし^テ芽^ノハ^カが^らづ^と漢^ノ茶^ノハ^カ茶^ノと^モる^クことあり^シ

○雲脚^ハは^レ何^レも^ハ茶^ノの^ノ製^法なり^シて^モ茶^ノハ^カ茶^ノと^モる^クことあり^シ

○^キハ^レ何^レも^ハ茶^ノの^ノ製^法なり^シて^モ茶^ノハ^カ茶^ノと^モる^クことあり^シ

七三九

